

小台町会

地区防災計画

〔大規模水害を想定した
コミュニティタイムライン〕

令和 3 年 3 月

小台町会

目 次

1 地区防災計画とは	1
(1) 地区防災計画の目的と位置づけ	1
(2) 地区防災計画の対象、範囲等	1
(3) 地区防災計画の構成	2
(4) 実践と検証	3
2 地区特性	4
(1) 地区の成り立ちと現況	4
(2) 水害の被害想定	9
(3) 地震の被害想定	10
3 水害時の対応シナリオ	13
(1) 水害が予想される場合の防災行動の概要（分散避難）	13
(2) 水害が予想される場合の対応シナリオ	13
(3) 防災マップ	13
(4) 小台・宮城地区コミュニティタイムラインの検討	20
(5) 小台・宮城地区水害に関するアンケート結果	21
(6) コミュニティタイムラインの作成	26
4 小台町会における平時の備え	28
(1) 事前対策リスト	28
(2) 日頃の取り組み	30
※ 様式・資料編	32
資料 1 様式集	33
参考様式 1 緊急時連絡先一覧表	33
参考様式 2 備蓄品リスト	34
参考様式 3 町会年間スケジュール	35
参考様式 4 防災区民組織名簿	36
資料 2 スマートフォン用防災アプリ「足立区防災ナビ」	37
資料 3 A-メール（足立区メール配信サービス）	37
資料 4 あだち安心電話	38
資料 5 防災無線のテレホン案内	39
資料 6 足立区 LINE 公式アカウント	39
資料 7 地点別浸水シミュレーション検索システム（浸水ナビ）	40

1 地区防災計画とは

(1) 地区防災計画の目的と位置づけ

足立区は、河川が運んできた土砂の堆積により陸地が形成された沖積低地であり、区全域が海拔2m前後で、北西部がやや高く、南東部にかけて緩やかに傾斜しながら下り、一部では海拔0m地帯を形成しています。

小台・宮城地区は、荒川がすぐ近くを流れており、過去に荒川が氾濫したこともあることから、台風や大雨の際には洪水の危険性が非常に高い地域です。

一方で、東日本大震災や熊本地震、平成30年西日本豪雨などの近年の災害においては、地域住民自らによる「自助」、地域コミュニティによる「共助」が、避難行動、避難誘導、避難所運営等において重要な役割を果たしています。

そこで、小台町会では、自助・共助による地域防災力を向上させ、大規模水害時の地域の被害を軽減することを目的として、コミュニティタイムラインについて検討し、「小台町会地区防災計画」を策定しました。

地区防災計画は、災害が起きることを想定し、そのための準備と災害時の自発的な行動を検討し、私たち地区に居住する者が自らつくる計画です。

今後、必要に応じて改定していきます。

(2) 地区防災計画の対象、範囲等

対象とする災害	水害 (令和2年度は水害に重点をおいて検討)
対象とする範囲	小台町会 (避難所、避難場所への避難経路も対象)
対象者	小台町会の居住者、事業者など町会内にいるすべての人
対象時期	台風接近時～初動活動～避難行動

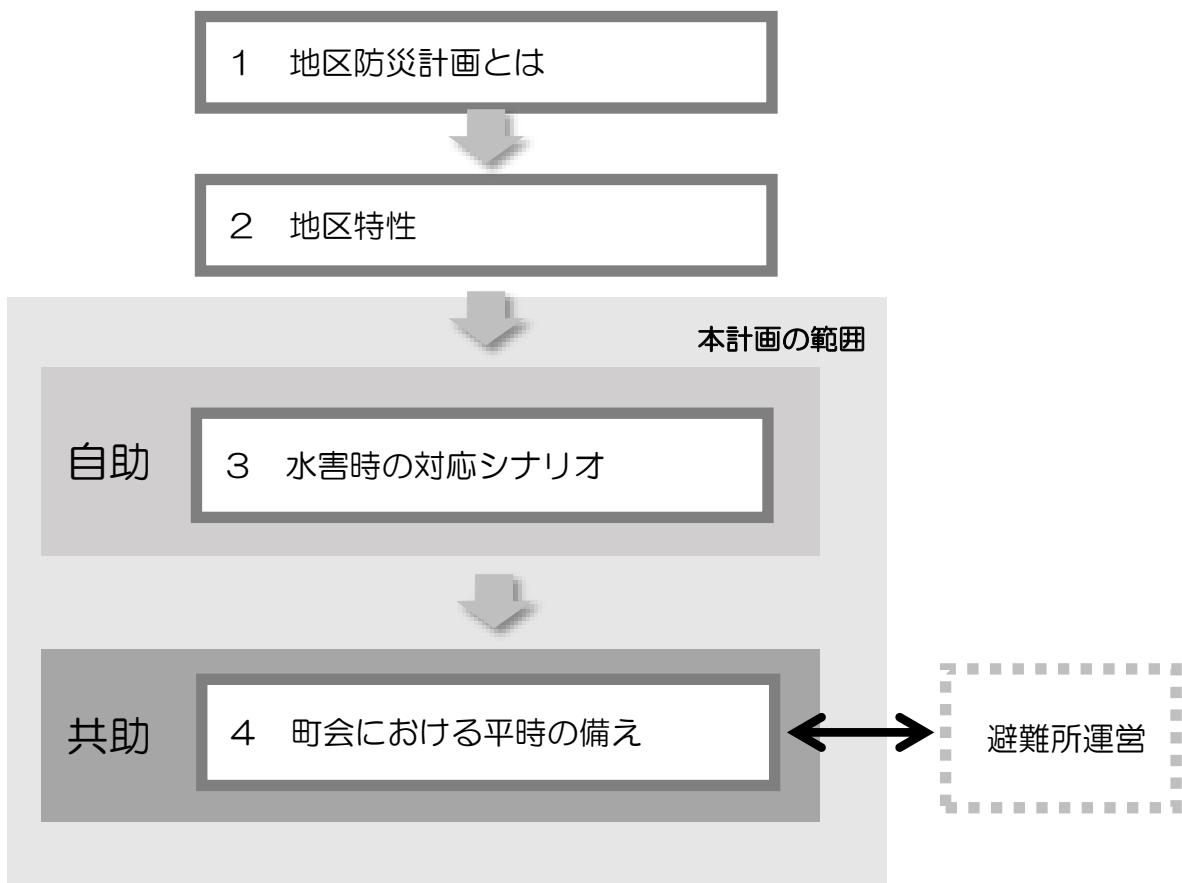
1 地区防災計画とは

(3) 地区防災計画の構成

本計画では、「2 地区特性」で自分たちの地域について知るための資料を整理し、「3 水害時の対応シナリオ」で地域住民自らによる「自助」、すなわち、事前の防災行動や、水害が発生した場合にどこに、どのように避難するかを整理しました。

「4 町会における平時の備え」では、町会及び地区住民等において進めるべき「共助」の考え方、平常時において準備しておく事項等を記載しています。

最後に、資料として情報収集の手段について記載しています。

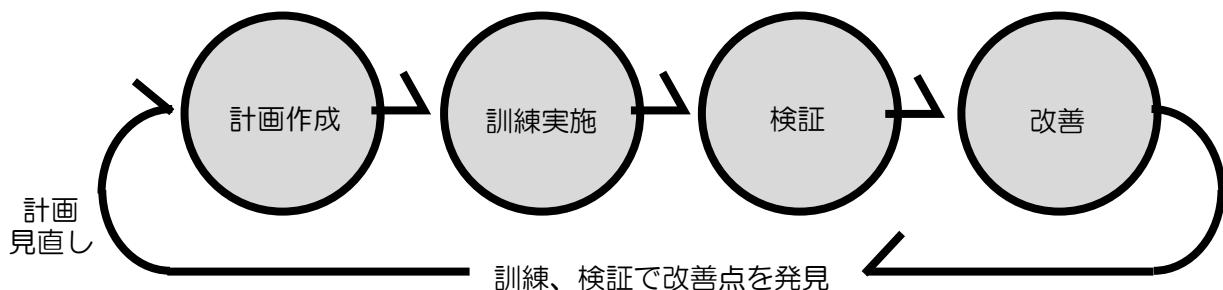


注) 本計画では、水害が予想される場合の準備行動から、避難するまでの考え方や手順を整理し、避難所を設置したのちの避難所運営は、他の計画(避難所マニュアル等)に従うこととします。

(4) 実践と検証

計画を形骸化させないため、以下のような取り組みを行います。

実践と検証の流れ



計画に基づいた防災訓練を行います。

■防災訓練

避難時の訓練	応急訓練	避難後の訓練
<ul style="list-style-type: none"> ○避難訓練 ○避難所・避難路・避難場所等の確認 ○避難経路上の危険箇所の確認 ○要配慮者の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ○浸水対策訓練 (土のう造り・積上訓練等) ○救急応急措置訓練 (心肺蘇生法・AED 講習等) ○防災資機材取扱訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ○避難所開設訓練 ○避難所運営訓練 (給食・給水、情報の収集・共有・伝達、物資配給対応等)

※訓練は、区や消防署、消防団、各種団体や地元企業等と連携したものにすると、より実効性が高まります。



防災訓練の結果について、区職員等を交えて検証を行い、課題を把握して活動を改善します。

- 活動の対象範囲や活動体制（役割分担）を変える必要はないか
- 地区における重要なことに変化はないか

- 長期的な活動予定に変更はないか
- 実際の活動が実体のあるものになっているか
- 防災訓練、備蓄等の事前対策、教育・研修等が十分に行われているか

実践と検証を通じて、計画の実効性を確保します。
必要に応じて、計画の見直し、追加等を行います。

見直した場合は、町会を通じて区に報告するとともに、説明会やチラシ等により地区住民等の皆さんに報告します。

2 地区特性

(1) 地区の成り立ちと現況

①地形

小台地区は、まわりよりもわずかに高い自然堤防が形成されている土地が北西側にあります。地区内の大部分は盛土地・埋立地となっています。

盛土地・埋立地は、軟弱な粘土やシルト*が厚く分布しているため、地震時には揺れやすいとされています。標高は1m以上3m未満となっています。

*シルト：砂より小さく、粘土より粗い破屑物（岩石が壊れてできた破片・粒子）をシルトと言います。

■土地条件図

自然堤防

（洪水時に運ばれた砂等が、流路沿いに堆積してできた微高地）

盛土地・埋立地

（低地に土を盛って造成した平坦地や、水部

高水敷・低水敷

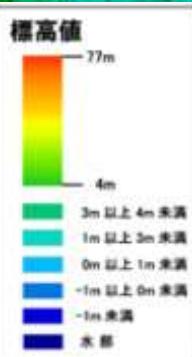
（増水時に水没する河川敷）



出典：国土地理院「数値地図 25000（土地条件）」

■標高

小台町会



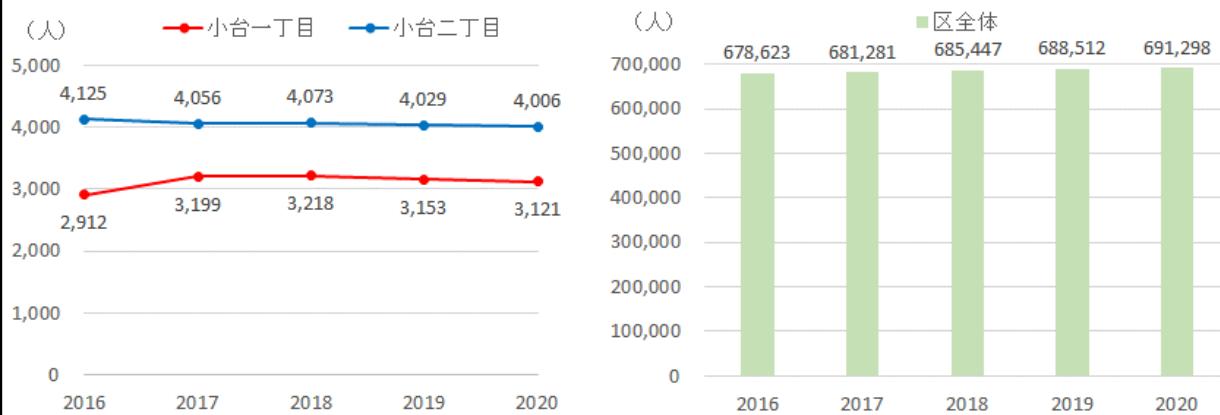
典：「デジタル標高地形図」（国土地理院）

②人口・世帯数

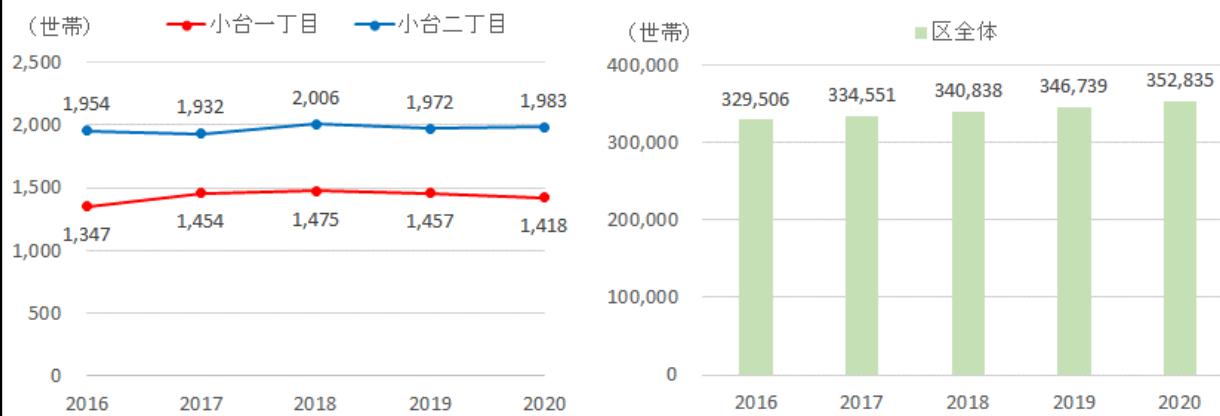
小台一丁目の人団・世帯数は3,121人、1,418世帯、小台二丁目の人団・世帯数は4,006人、1,983世帯となっています（住民基本台帳、令和2年1月1日現在）。

最近5年間の推移を見ると、人口・世帯数ともおおむね横ばい傾向にありますかが、近年3年間に限るとわずかに減少傾向が見られます。

<人口>



<世帯数>

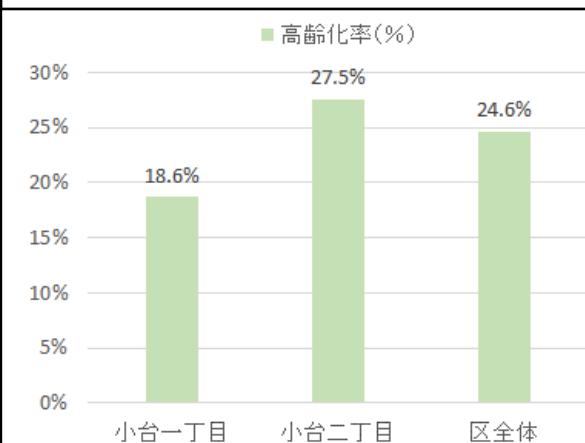


出典：住民基本台帳

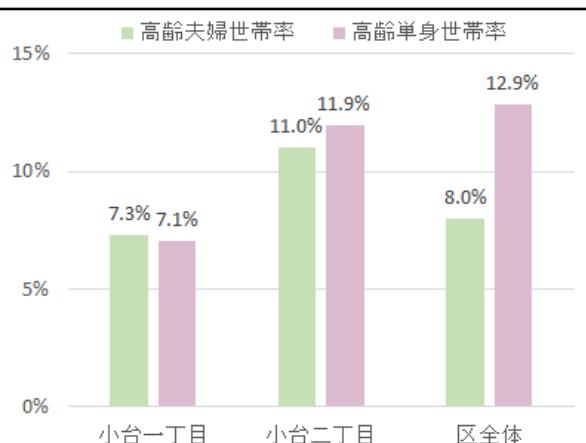
③高齢化（65歳以上の人口）の状況

高齢化は小台二丁目でやや進んでおり、高齢化率（平成27年）は区全体より高い水準にあります。また、高齢夫婦世帯・高齢単身世帯の割合も小台二丁目で区全体より高い状況にあります。

<高齢化率>



<高齢者世帯の状況>



出典：平成27年国勢調査

2 地区特性

④用途地域

準工業地域、工業地域、工業専用地域となっており、一部が近隣商業地域に指定されています。



<凡例>

用途地域	
■	五ヶ瀬商業地域
■	準工業地域(特別工業地区)
■	工業地域
■	工業専用地域
都市計画	
■	開花計画公団・駅前
地区計画等	
■	地区計画区域

工業地域：どんな工場でも建てられる地域です。住宅やお店は立てられますが、学校、病院、ホテルなどは建てられません。

準工業地域（特別工業地区）：主に軽工業の工場やサービス施設等が立地する地域です。危険性、環境悪化が大きい工場のほかは、ほとんど建てられます。ただし、特別工業地区では、一定の大きさを超える原動機を使用する工場は建てられません。

工業専用地域：工場のための地域です。どんな工場でも建てられますが、住宅、お店、学校、病院、ホテルなどは建てられません。

近隣商業地域：まわりの住民が日用品の販賣などを目的とするための地域です。住宅や店舗のほかに小規模の工場も建てられます。

出典：「用途地域等指定図」

⑤用途別建物現況

西側では大部分が独立住宅となっており、東側は専用商業施設や集合住宅となっています。



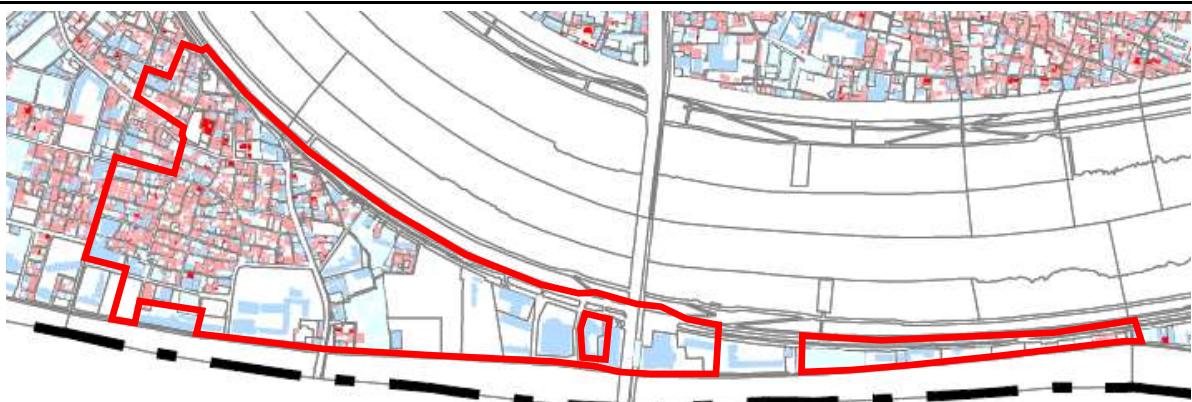
<凡例>

■	官公庁施設	■	スポーツ・興行施設	■	屋外利用地等	■	樹園地
■	教育文化施設	■	独立住宅	■	その他	■	水面・河川・水路
■	厚生医療施設	■	集合住宅	■	公園・運動場	■	原野
■	供給処理施設	■	専用工場	■	未利用地等	■	森林
■	事務所建築物	■	住居併用工場	■	道路		
■	専用商業施設	■	倉庫運輸関係施設	■	鉄道・港湾等		
■	住商併用建物	■	農林漁業施設	■	田		
■	宿泊・遊興施設			■	畠		

出典：「平成 28 年土地利用現況調査」

⑥構造別建物現況

西側ではほとんどの建物が防火造、耐火造、準耐火造であり、東側は耐火造になっています。



<凡例>

- 耐火造
主要な構造部分（柱・梁・壁・屋根等）が鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造、耐火被覆した鉄骨造、れんが造、石造等でできているもの
- 準耐火造
外壁が耐火造で屋根がコンクリート等の不燃材料でできている、または柱及び梁が不燃材料で外壁及び屋根等が防火造でできているもの、または木造以外で耐火造に属さないもの
- 防火造
柱及び梁が木造で屋根及び外壁がモルタル、漆喰等の準不燃材料でできているもの
- 木造
主要な構造部分が木造で上記のいずれの区分にも属さない防火性能の低いもの

出典：「平成 28 年土地利用現況調査」

⑦階数別建物現況

建物は、大部分が 2 階建てですが、防火造の建物では 3 階建ても多くなっています。



<凡例>

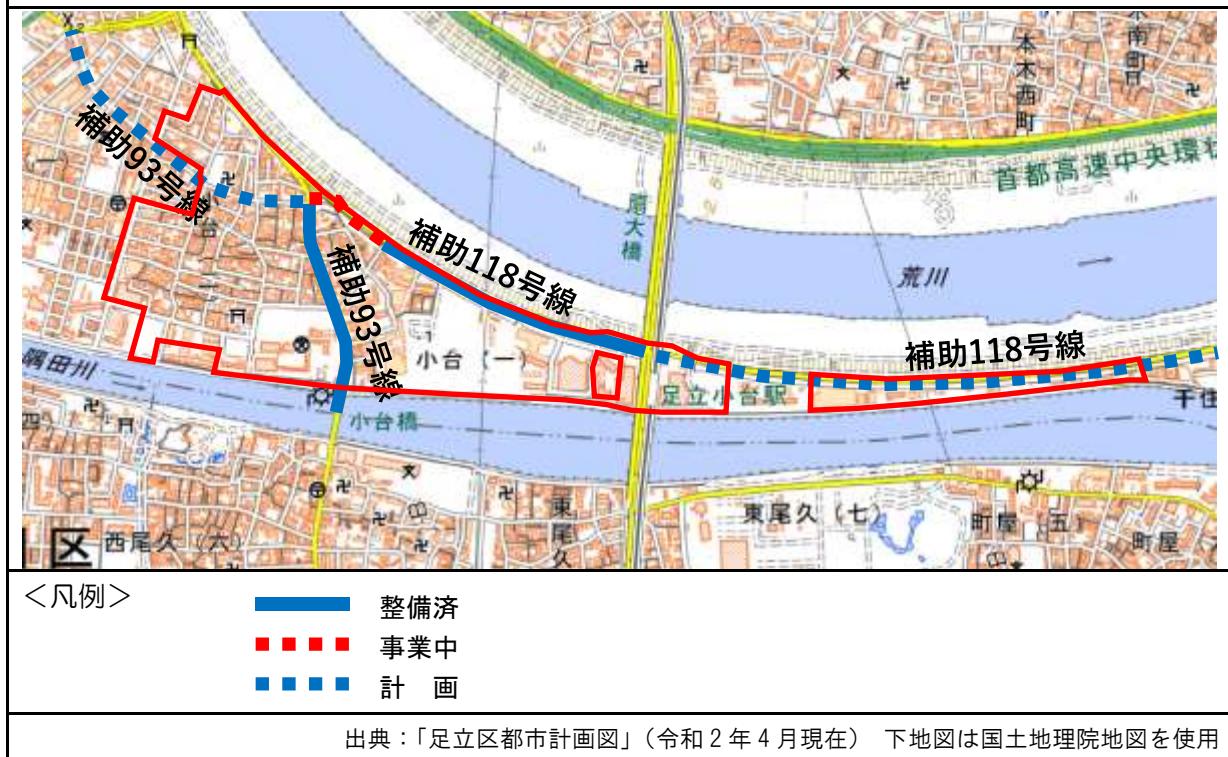
- | | |
|---|-----------|
| ■ | 1階 |
| ■ | 2階 |
| ■ | 3階 |
| ■ | 中層階(4~7階) |
| ■ | 高層階(8階以上) |

出典：「平成 28 年土地利用現況調査」

2 地区特性

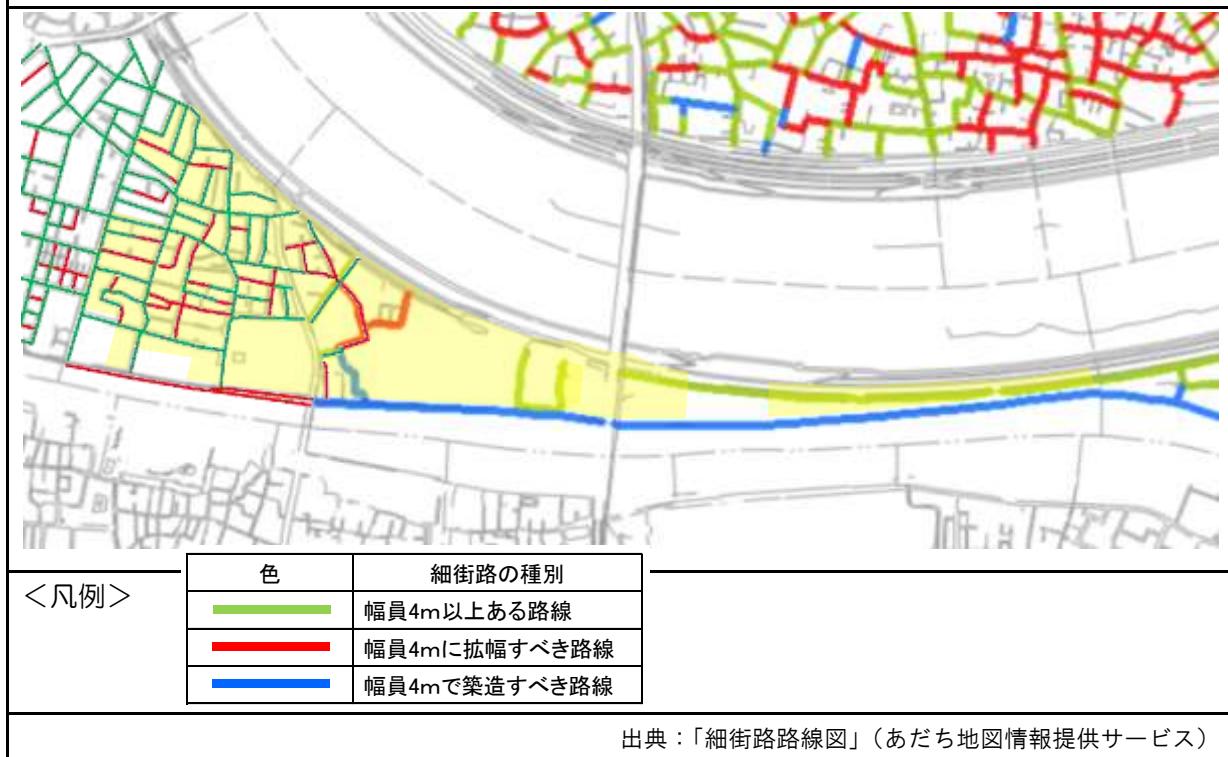
⑧都市計画道路の整備状況

都市計画道路は、補助93号線が小台町会の西側に、補助118号線が小台町会の北縁を東西に計画されています。補助118号線は一部整備済み、一部事業中です。



⑨細街路の状況

地区内では、4mに拡幅すべき細街路が残っています。



(2) 水害の被害想定

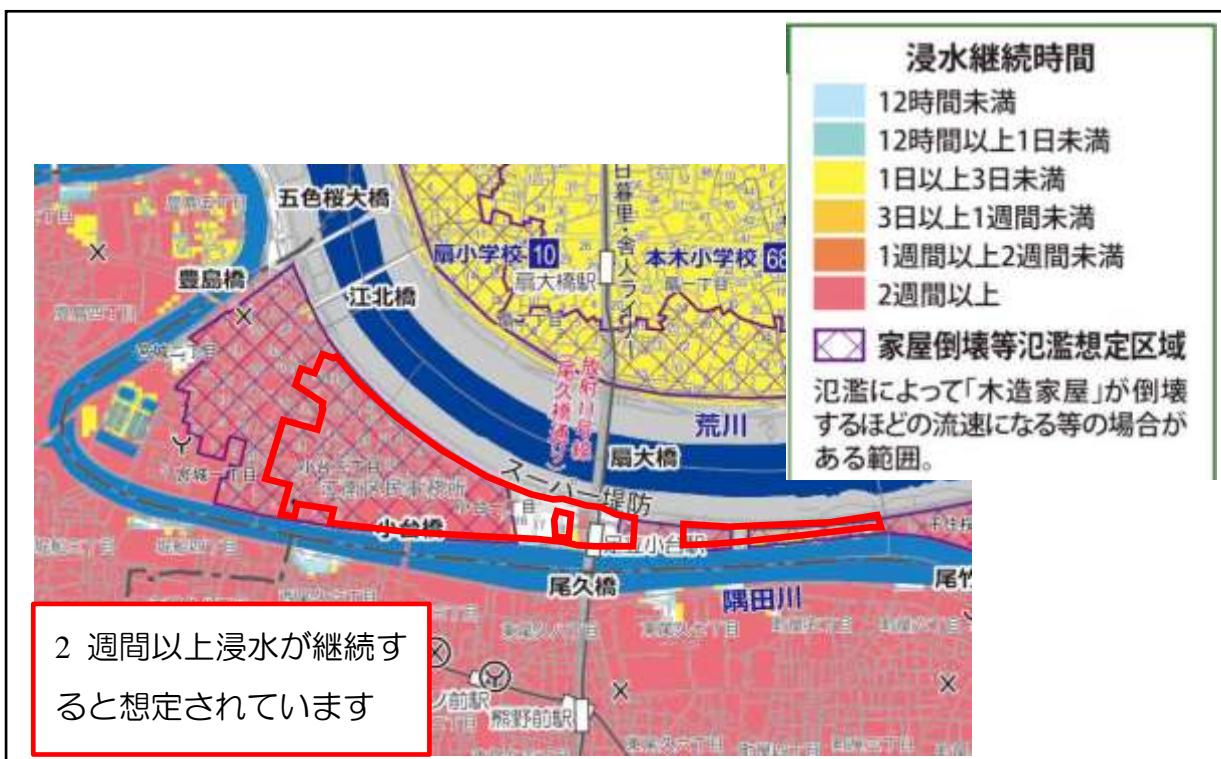
小台町会において、河川氾濫による水害が想定される河川として、荒川があります。

①足立区洪水ハザードマップ

■最大浸水深



■浸水継続時間



(3) 地震の被害想定

①首都直下地震の被害想定の概要

南関東地域における首都直下地震（マグニチュード 7.3 規模）の発生確率は、今後 30 年以内に 70%といわれています。

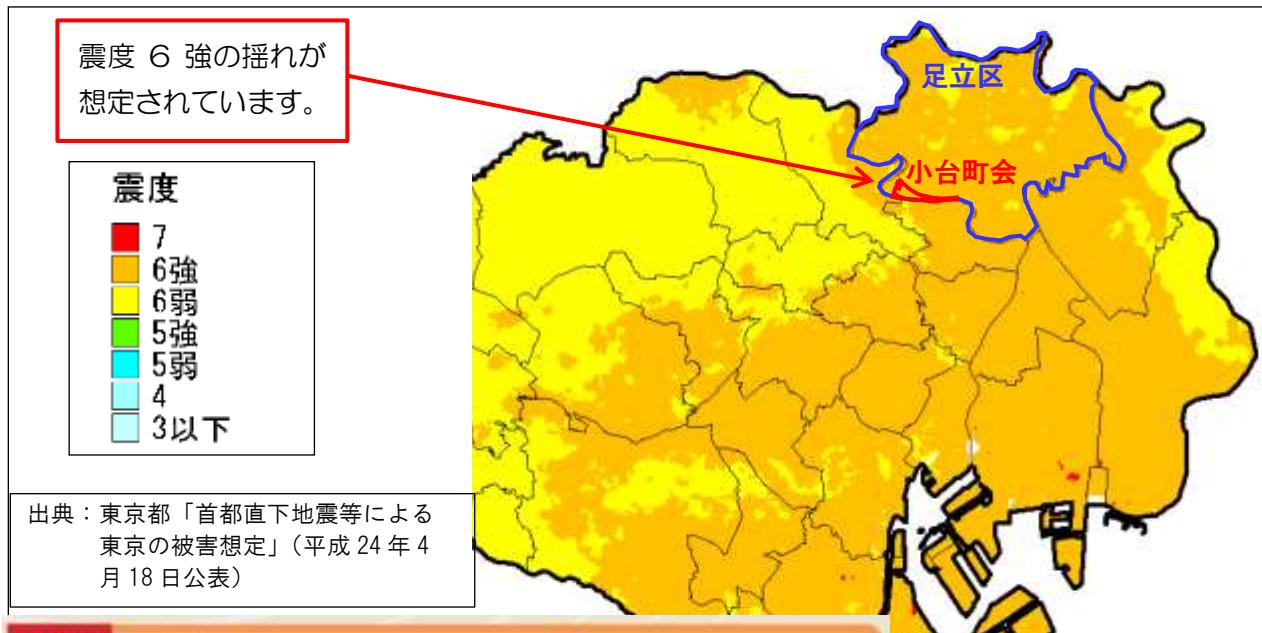
■首都直下地震(東京湾北部地震)における足立区の被害想定

(M7.3、冬の 18 時、風速 8m/秒)

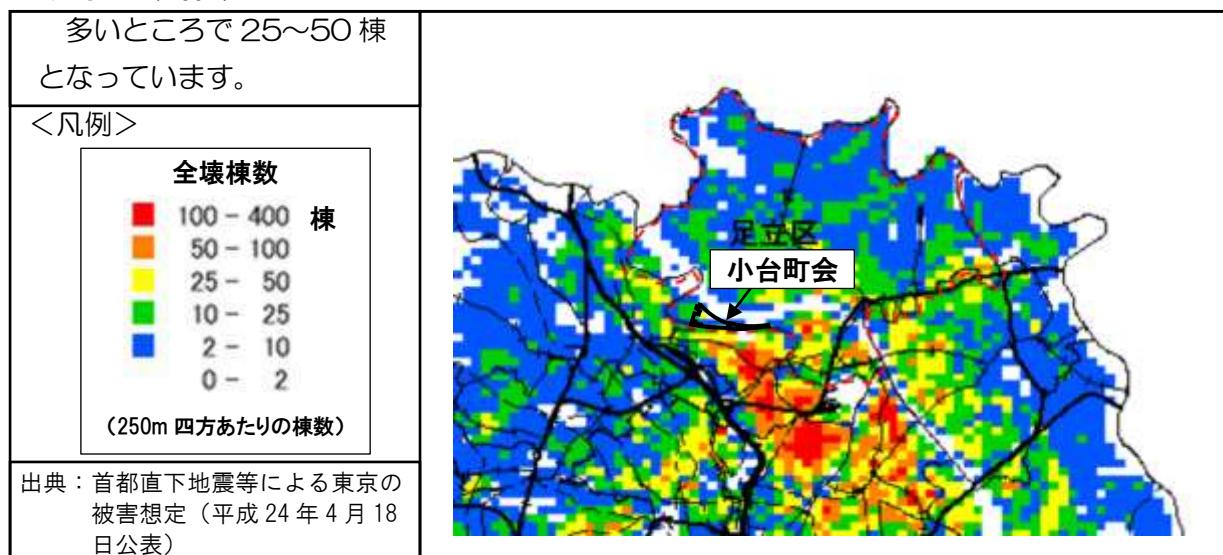
被害区分	被害の規模	参考	
死者	712 人	区の夜間人口の 0.10%	
負傷者	9,033 人	" 1.3%	
建物全壊	10,082 棟	区の全建物棟数の 7.0%	
建物焼失	16,124 棟	" 11.2%	
避難者	280,862 人	区の夜間人口の 41.1%	
帰宅困難者	107,115 人	区の昼間人口の 19.9%	

出典：東京都「首都直下地震等による東京の被害想定」（平成 24 年 4 月 18 日公表）

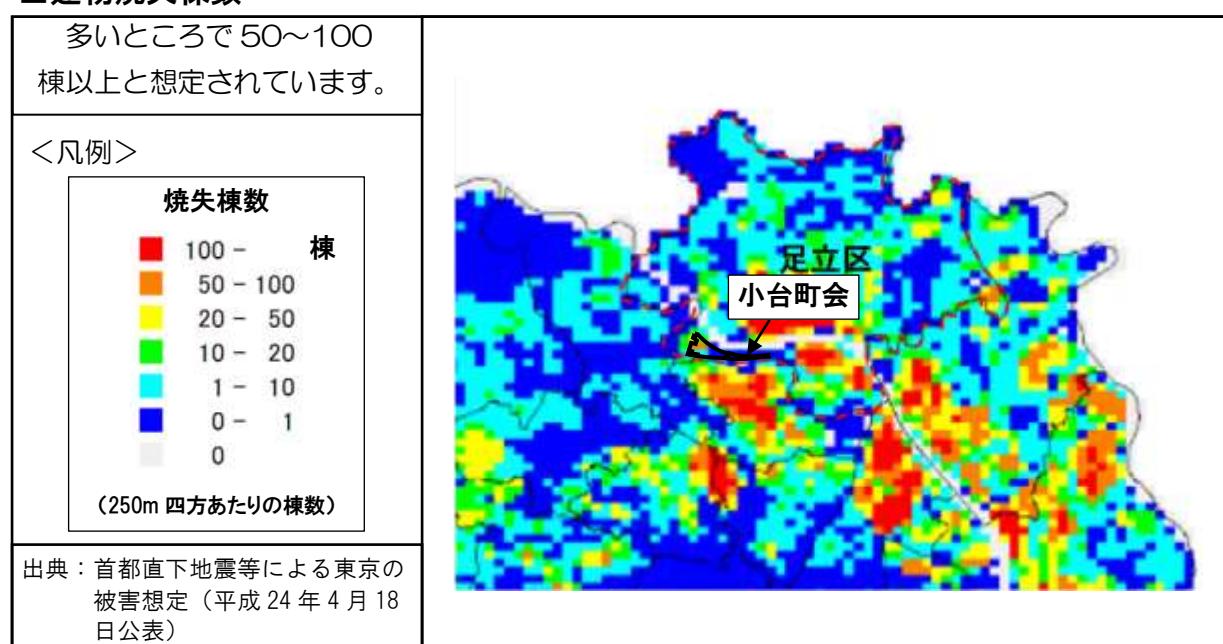
■首都直下地震(東京湾北部地震)の地震動分布



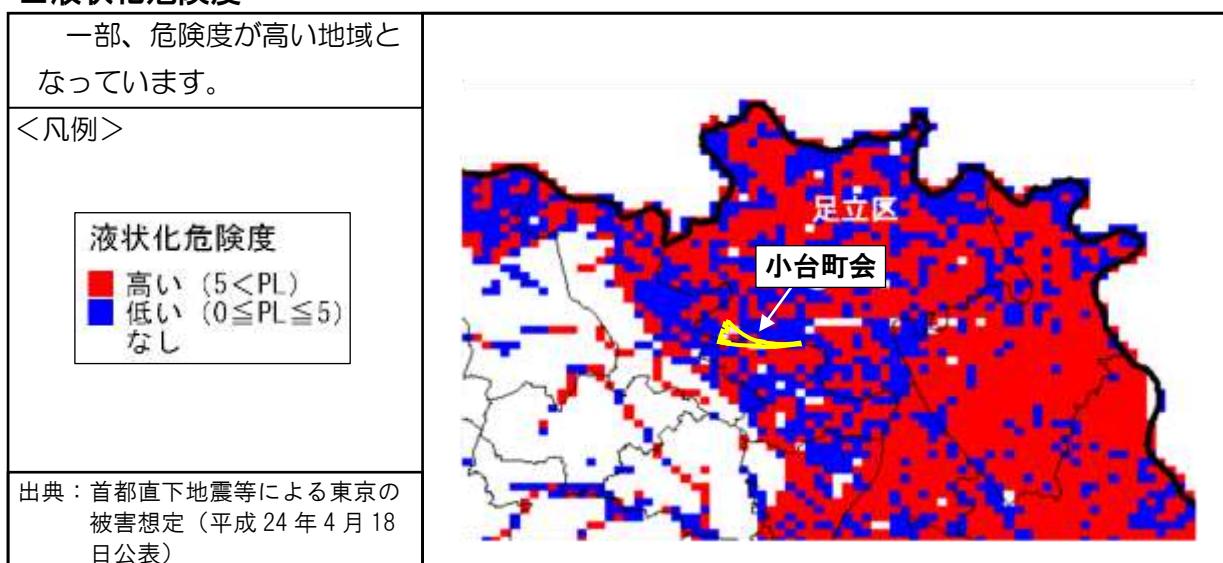
■建物全壊棟数



■建物焼失棟数



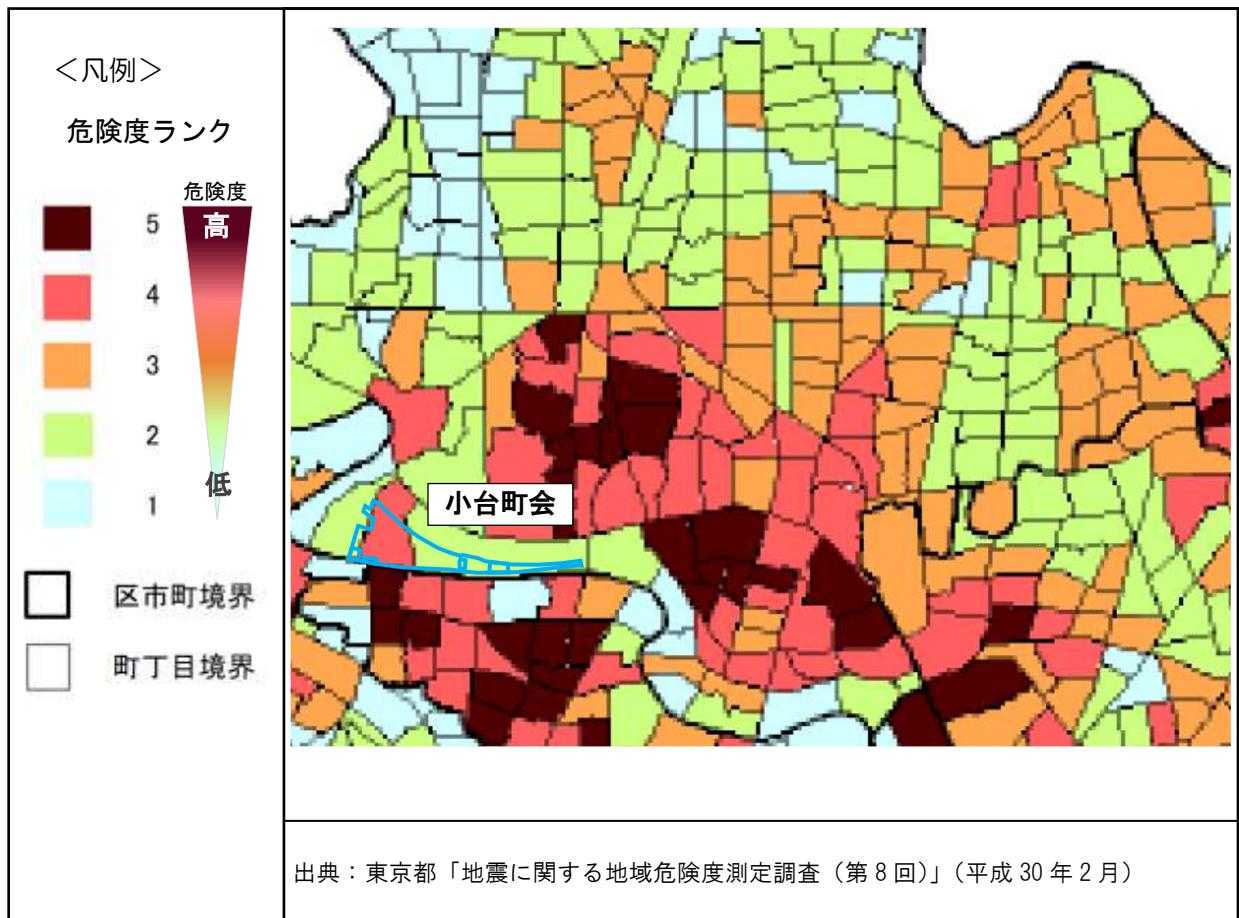
■液状化危険度



②地域危険度*

東京都「地震に関する地域危険度測定調査（第8回、平成30年2月公表）」によると、この地域は建物倒壊危険度、火災危険度、災害時活動困難度を考慮した総合危険度について危険度が4と2になっています。（都内5,177町丁目の中で総合危険度が、小台二丁目は357位、小台一丁目は2,340位）

■地震に関する地域危険度



*地域危険度は、都内の町丁目の地震に対する危険性を比較するため、特定の地震を想定するのではなく、全ての町丁目直下の地盤で同じ強さの揺れが生じた場合の危険性を測定しています。

3 水害時の対応シナリオ

(1) 水害が予想される場合の防災行動の概要（分散避難）

平常時の備えから、台風等が発生した際の情報収集から避難までの行動の目安をP14、15に整理しています。

(2) 水害が予想される場合の対応シナリオ

水害が予想される台風等が発生してから洪水に至るまでに発令される避難情報をP16、17に整理しています。

(3) 防災マップ

水害時の緊急避難建物を「地区防災マップ」としてP18、19に整理しています。

水害が予想される場合の防災行動の概要

三密
対策

分散避難

避難所には多くの方が来ます。三密を避けるため、自宅の浸水リスクを把握し、避難所以外へ「分散避難」ができるか事前に検討をお願いします。

STEP 1

足立区洪水ハザードマップで、自宅の浸水リスクを確認



河川(荒川、利根川、江戸川、中川、綾瀬川、芝川・新芝川)ごとに水害を想定。避難方法を考えるために、まずは自宅や周辺の浸水する危険性を把握しましょう。お持ちでない方には企画調整課、区民事務所で配布しています。くわしくはお問い合わせください。 [問い合わせ先] 企画調整課 企画調整担当 ☎ 3880-5349



△区のホームページでも閲覧可

避難方法の判断ポイント!

- 浸水深
- 浸水継続時間

河川ごとに確認して、ハザードマップの「避難行動メモ」に記入しておこう!

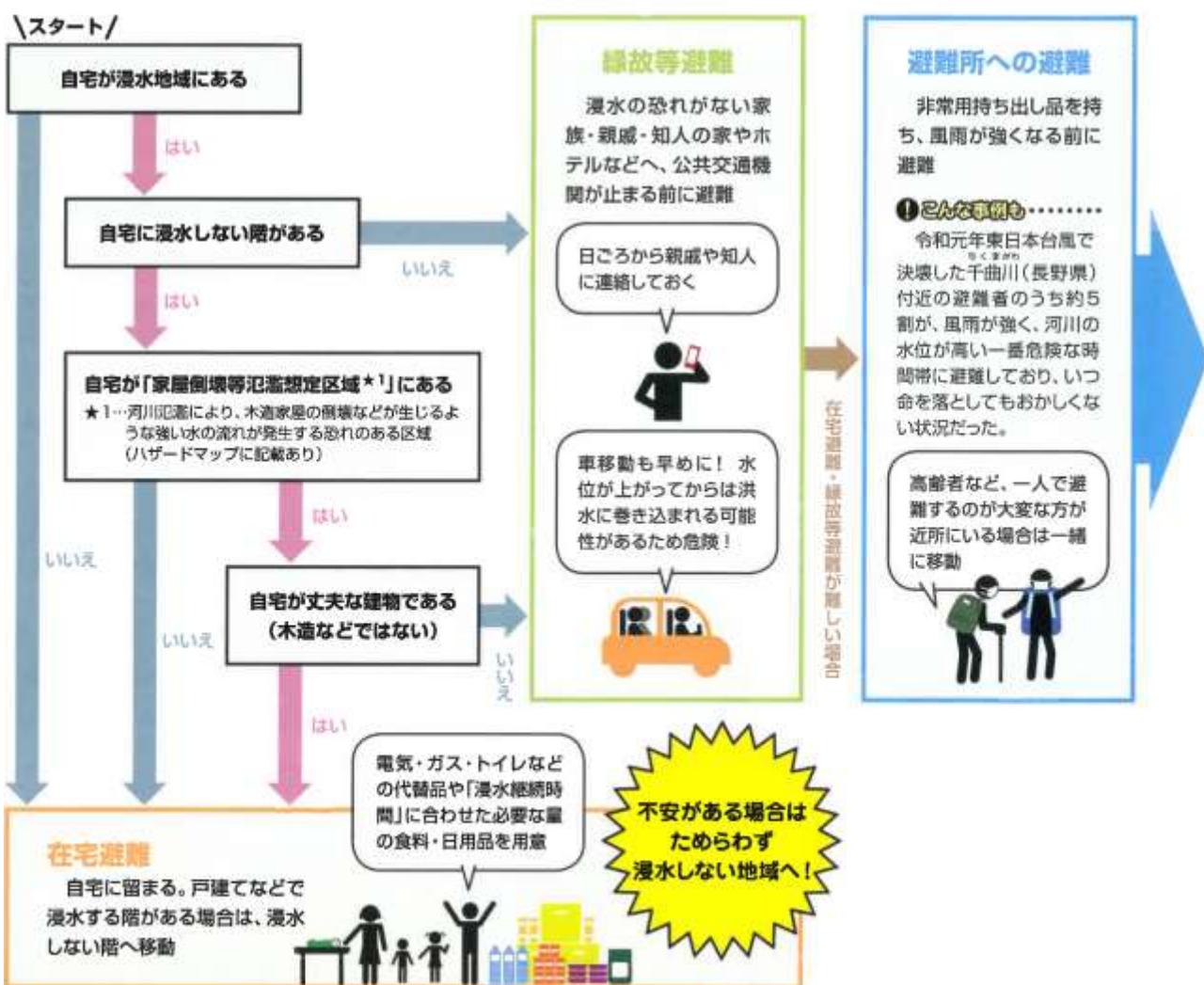
例えば、荒川氾濫時、千住地域の最大浸水深は、5m以上(3・4階まで浸水)の所もあれば、3~5m(2階まで浸水)の所も、自宅の場所や住んでいる階などで、避難方法を考えることが重要です。

☎ 3880-5349

STEP 2

自宅の浸水リスクを踏まえ、避難方法を検討

自宅の「浸水深」「浸水継続時間」を把握したら、下記のフローチャートを参考に避難方法を考えましょう。



いざ
避難

避難所でのルールを守る

必ずルールを守り、避難者同士で助け合い円滑な運営にご協力ください。

開設・受け付け

災害対策本部^{*2}が避難所開設を決定し、区職員を配備

荒川氾濫が予想される場合、避難所（区立小・中学校など）を一齊開設します。そのほかの河川の場合は、気象情報などをもとに判断します。

★2…台風・豪雨などの発生により、区内に被害が生じる恐れがある場合に区が設置



受け付け^{*3}で避難者カードに住所・氏名などを記入

そのほか、下記のことを行います。
・検温の実施 感染症対策
・運営ボランティアを募集など
★3…家族で別々に避難して受け付けをした場合は同じ居室にならないことがあります。



ペット動物との同行避難

受け付け時にペット登録カードを記入し、ペット動物用居室へ。飼い主とは原則居室が異なります。

ケージ、リード、エサ、シートなどは必ず持参してください。



避難中

避難所の居室は浸水しない最上階から利用

浸水する際にある体育館は、受け付けなどで一時的に使用する場合を除き、使用しません。



37.5℃以上の方は居室を分ける

受け付け時に検温し、37.5℃以上の熱がある方の居室分けを行います。



避難当日の食料・水の提供は行いません

区の備蓄品は河川が氾濫し、避難の長期化が見込まれる場合に使用します。2食分の食料（火やお湯を使わないもの^{*4}）や水、タオルなどは必ず持参ください。

★4…乳幼児用のミルクなどを除く



閉鎖

物資受け取りは避難者自身で

毛布などの物資は、避難者が受け取りに来てください。



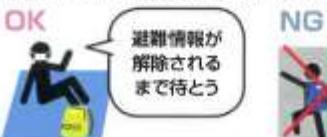
最新の情報を確認

校内放送や掲示板などで災害対策本部からの情報を周知します。



雨が止んでも危険は去らない

令和元年東日本台風では、台風通過後に河川の水位が上昇。避難情報の解除や避難所の閉鎖については、災害対策本部が判断します。それまでは、避難所に留まってください。

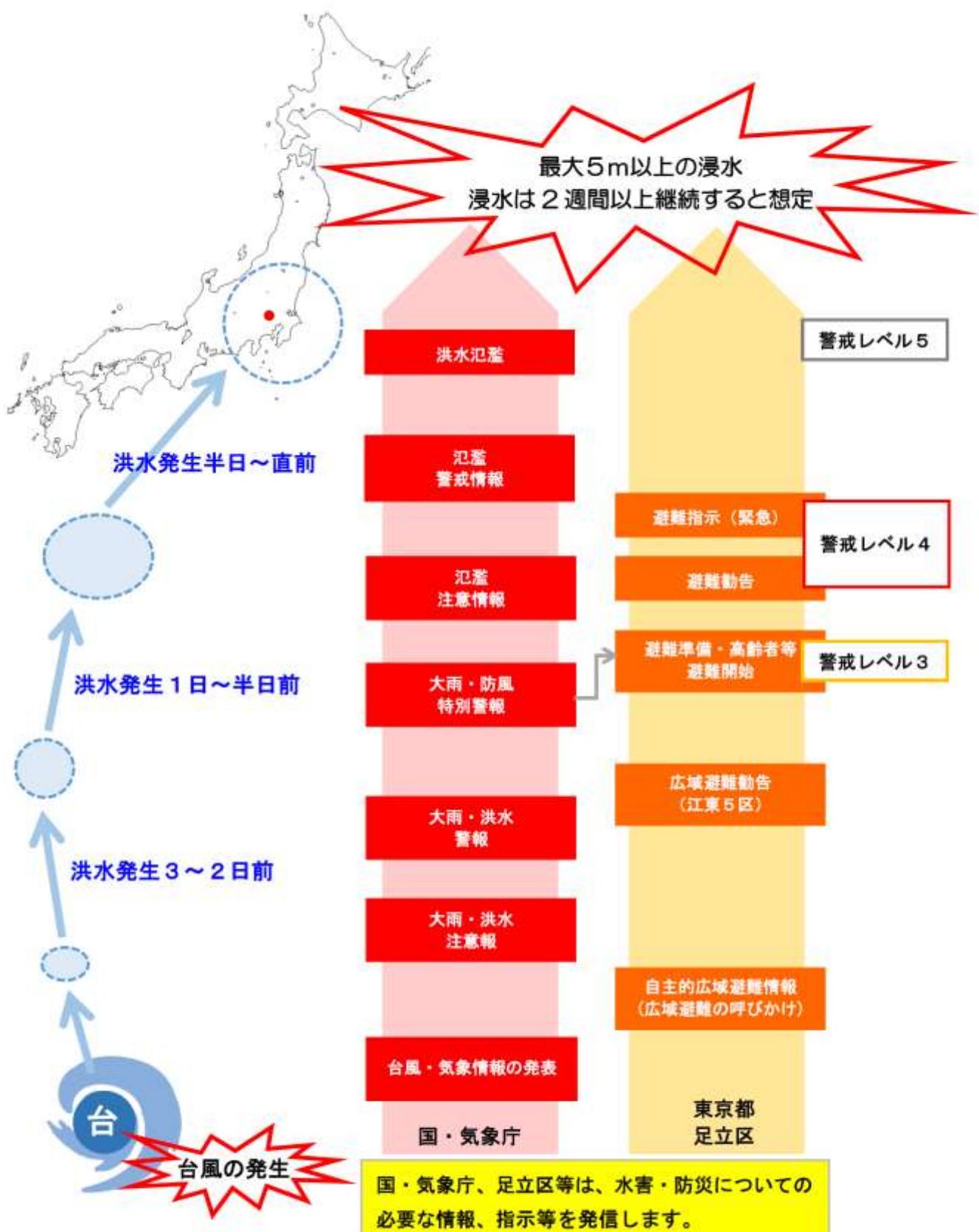


身の回りを清掃し、ごみは各自で持ち帰り

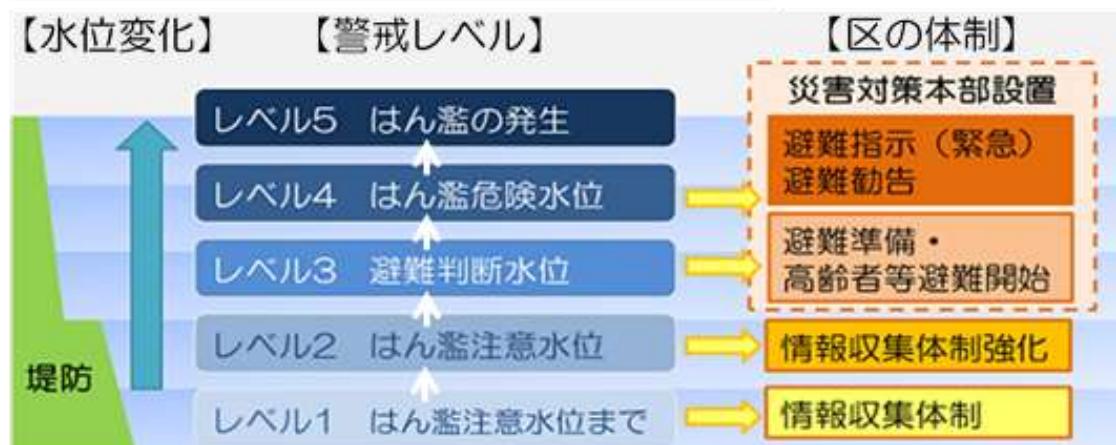
使用した部屋の清掃や毛布などの返却にご協力をお願いします。また、ごみは原則お持ち帰りください。



水害が予想される場合の対応シナリオ



■水位変化・危険レベルと足立区の体制



■避難情報について

避難準備・高齢者等避難開始

避難の準備

いつでも避難できる状態です。
身の危険を感じたら自主避難を開始します。



要配慮者は避難を開始

避難に時間のかかる要配慮者は、避難を開始します。暴風雨の中では要配慮者の避難は大変困難です。



緊
急
度

避難勧告

避難を開始します。
要配慮者は避難を完了している状態です。

冠水した道路はマンホールや側溝のふたが外れている可能性があります。傘等で確認して移動する必要があります。



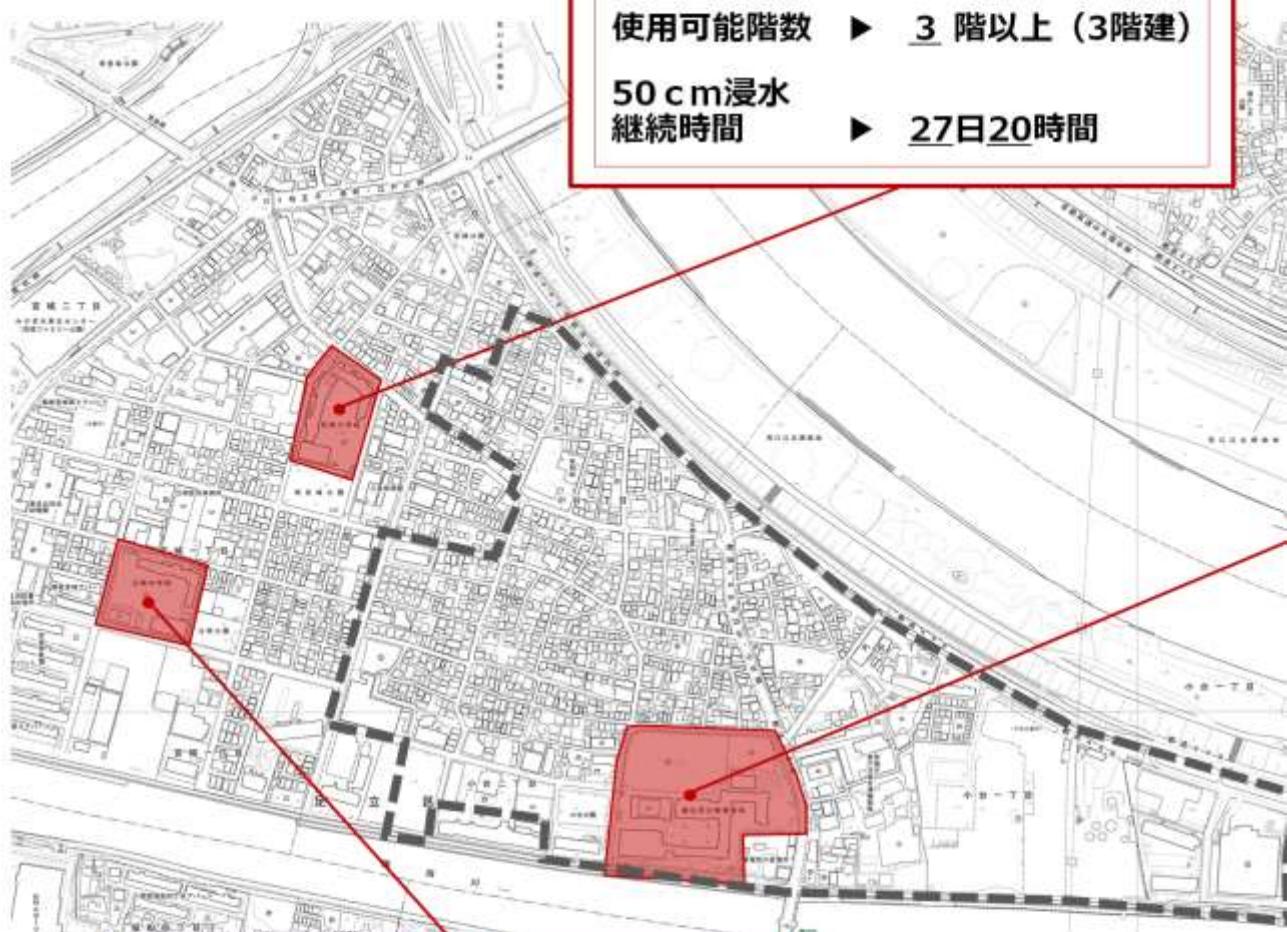
高

避難指示(緊急)

浸水想定区域に残っている人は直ちに垂直避難を行い、身の安全を確保します。



小台町会 地区防災マップ



避難所

宮城小学校

荒川が氾濫した時

浸水深 ▶ 4.61 m

使用可能階数 ▶ 3 階以上 (3階建)

50 cm浸水

継続時間 ▶ 27日20時間

避難所

江南中学校

荒川が氾濫した時

浸水深 ▶ 4.60 m

使用可能階数 ▶ 3 階以上 (4階建)

50 cm浸水

継続時間 ▶ 27日20時間

事前確認

避難所以外にも**水害時に避難が可能な建物**を
事前に確認しておきましょう。

避難所

荒川商業高校

荒川が氾濫した時

浸水深 ▶ 3.87 m

使用可能階数 ▶ 3 階以上（4階建）

**50 cm浸水
継続時間** ▶ 27日19時間



注：足立区洪水ハザードマップ（平成31年3月改訂）では、宮城小学校・江南中学校・荒川商業高校は、家屋倒壊等氾濫想定区域に入っているため、荒川氾濫時には緊急避難建物としては使用しない想定でしたが、足立区での検討の結果、浸水しないフロアがある学校は、避難所として開設することにしました。

3 水害時の対応シナリオ

(4) 小台・宮城地区コミュニティタイムラインの検討

小台・宮城地区において、令和元年度に「コミュニティタイムライン勉強会」、令和2年度に「小台・宮城地区コミュニティタイムライン検討部会」を設け、足立区総合防災行政アドバイザーを交えての勉強会や、3回の話し合い（ワークショップ方式）により、水害対策のコミュニティタイムラインの検討を行いました。検討は江南連絡協議会（小台町会、宮城町会、宮城第三団地自治会、尾久橋スカイハイツ自治会、ラ・セーヌ小台自治会、ライオンズマンション荒川遊園アクアステージ自治会）合同で行いました。

「小台・宮城地区コミュニティタイムライン検討部会」のスケジュールは、下表のとおりです。

小台・宮城地区コミュニティタイムライン検討部会の経緯

年度	年月日	検討、説明会等	テーマ・実施内容
令和元年度	12月2日	第1回勉強会	<ul style="list-style-type: none">・コミュニティタイムライン（CTL）とは・今後のスケジュール案について
	1月21日	第2回勉強会	<ul style="list-style-type: none">・まち歩きを通じて地区のリスクを確認する・中川地区からCTLの作り方と効果を学ぶ
	1~3月	小台・宮城地区 住民向け 水災害に関する住民アンケート	<ul style="list-style-type: none">・水災害に関する住民アンケート調査・調査設計、調査票作成、配布・回収
令和2年度	6月27日	第1回策定ワークショップ	<ul style="list-style-type: none">・小台・宮城地区住民アンケートの結果・地区の浸水リスクを知る・大規模水害時の避難を考える・避難先までの時間を考える
	7月18日	第2回策定ワークショップ	<ul style="list-style-type: none">・荒川の洪水特性と河川情報を知る・避難行動を考える・行動の主体を考える・連絡体制を考える
	9月6日	第3回策定ワークショップ	<ul style="list-style-type: none">・策定したコミュニティタイムラインを試行する・コロナ禍を想定した避難所運営訓練（江南中学校）

コミュニティタイムラインとは、風水害の予報や河川水位情報等をもとに避難のタイミングや取るべき防災行動について地域コミュニティで話し合い、「いつ・誰が・何をするか」を定めた行動計画のこと。

(5) 小台・宮城地区水害に関するアンケート結果

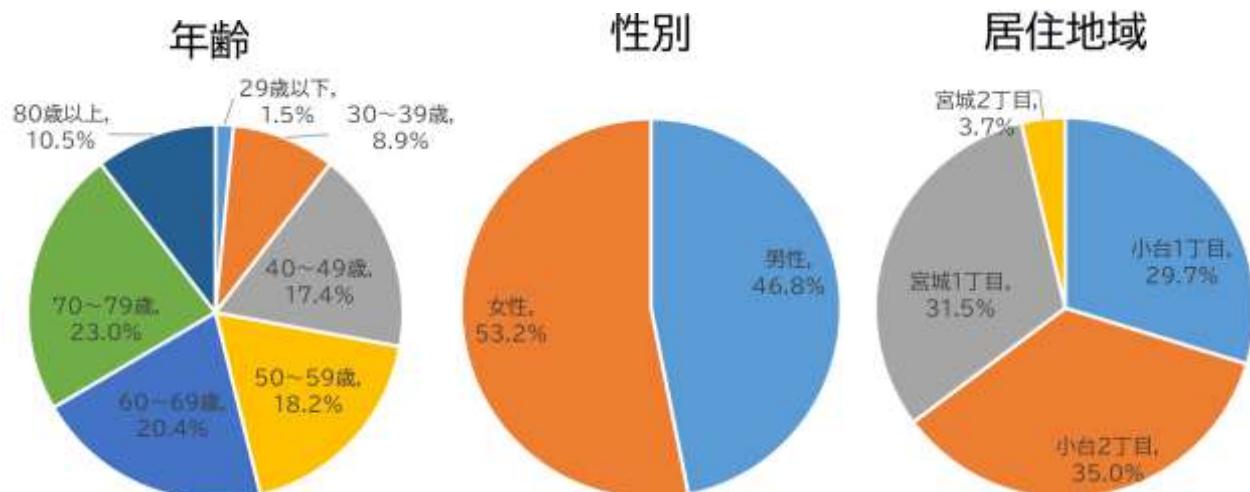
コミュニティタイムラインを検討するにあたり、小台・宮城地区における水害に関する住民アンケートを行いました。

小台・宮城地区水害に関する住民アンケートの概要

調査対象	足立区小台1丁目～2丁目/宮城1丁目～2丁目 全世帯 5,468世帯
調査方法	郵送調査
調査期間	令和2年3月25日～4月17日 ※4月22日回収分まで
有効回答数	1,396 (回収率: 25.53%)

小台・宮城地区における水災害に関する住民アンケートの主な結果は、以下のとおりです。

○回答者の主な属性

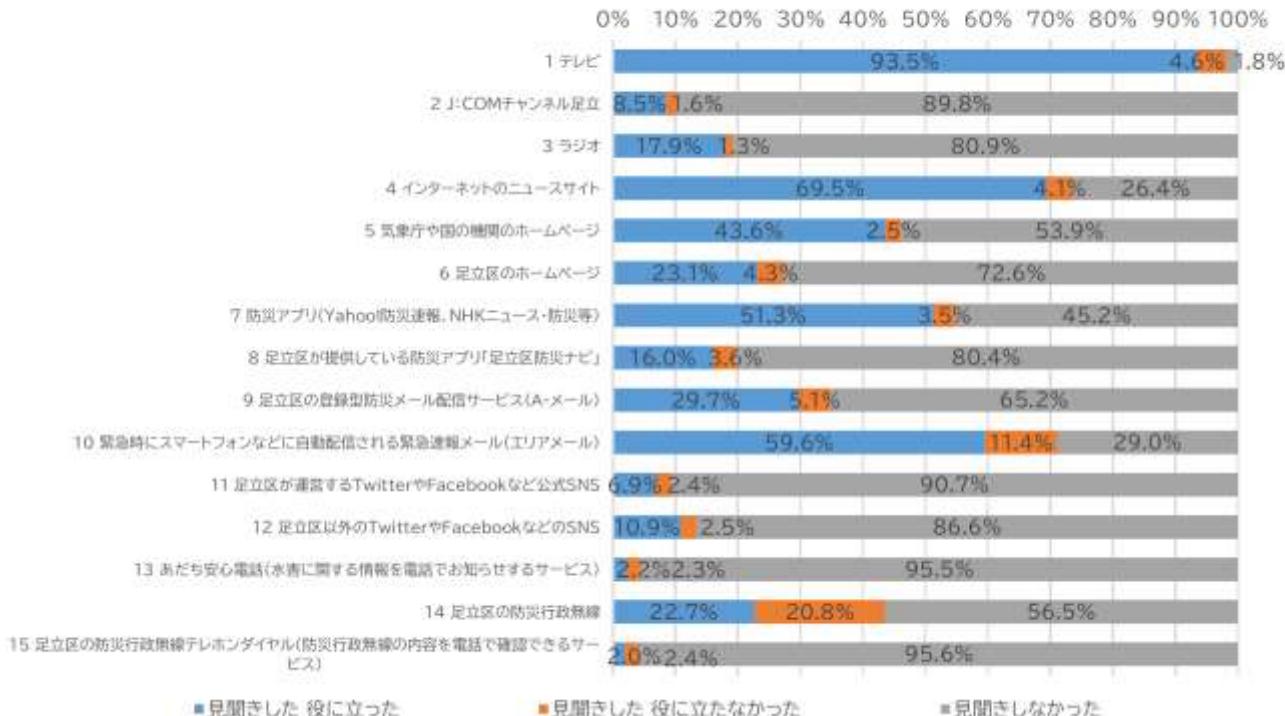


3 水害時の対応シナリオ

○情報を入手した手段

- ・テレビ(93.5%)やネットニュース(69.5%)、緊急速報メール(59.6%)、防災アプリ(51.3%)の利用率・役に立った人が多い。
- ・防災行政無線(20.8%)や緊急速報メール(11.4%)には改善が必要。

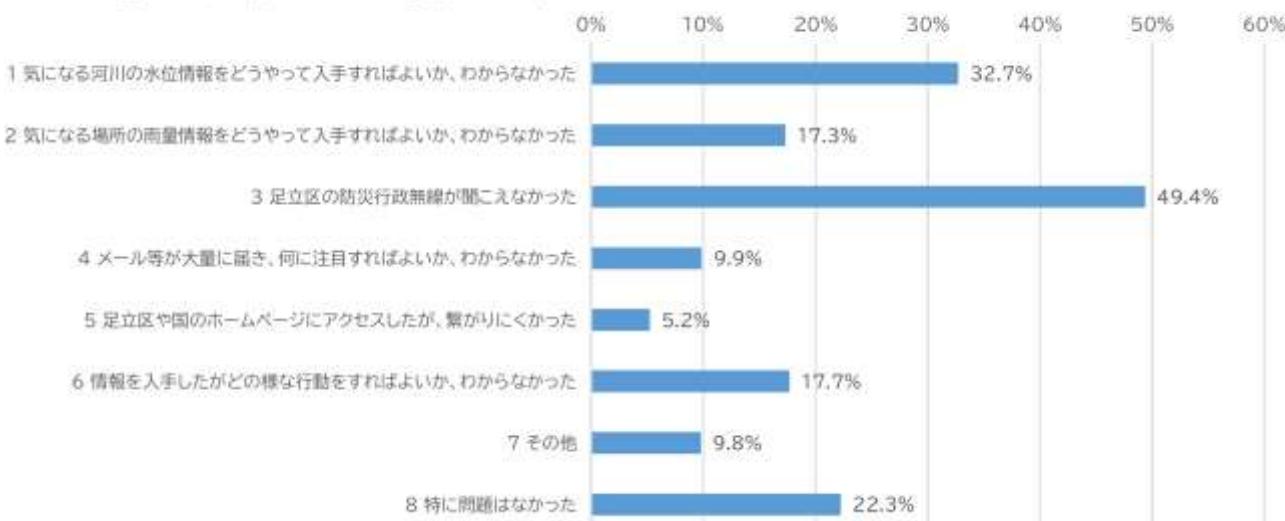
問6 あなたは、今回の台風の降雨や河川氾濫、避難に関する情報を、何で見聞きしましたか。またそれは役に立ちましたか。それぞれ、あてはまるものを1つお選びください(それぞれ○は1つずつ)。



○情報入手での問題点

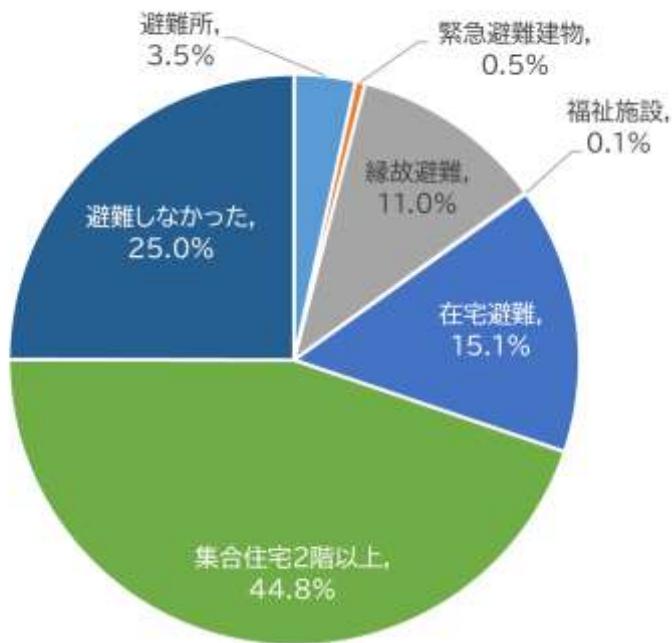
- ・防災行政無線が聞こえない(49.4%)が最も多い。
- ・水位の情報の入手方法が分からぬ人(32.7%)も多かった。
- ・ホームページのキャパシティに問題を感じた人は少なく(5.2%)、また情報が多くて何に注目すればよいか分からなかつたと感じた人も比較的少なかつた(9.9%)。

問8 あなたが、今回の台風で情報を入手している中で、次のような問題は生じましたか。あてはまるものをすべてお選びください(○はいくつでも可)。(n=1339)



○台風 19 号時の避難行動

問9 実際にあなたは在宅避難も含めて避難しましたか。あなたの行動に最も近いものを1つお選びください(○は1つ)。



- ・避難所や緊急避難建物・親戚知人宅・福祉施設などに避難した人が 15.1%
▶水平避難者
- ・在宅避難や集合住宅の2階以上にいた人が59.9%いた。
▶垂直避難者
- ・避難しなかった人が25.0%
▶避難なし

○台風 19 号時の避難行動に着目して(水平避難者)

水平避難者：台風第19号時に、避難所・緊急避難建物・親戚知人宅・福祉施設等への避難した人

問18 あなたは、今後、今回のような規模の台風が接近した場合、避難しますか。	全体	Q9 (台風19号で避難したか?)		
		水平避難	垂直避難	避難なし
1 足立区内の指定避難所に避難する	22.1%	26.8%	18.0%	27.7%
2 足立区内の家族の家に避難する	4.9%	15.8%	2.6%	3.5%
3 足立区内の友人・知人の家に避難する	2.2%	8.4%	0.9%	1.6%
4 足立区外の家族や友人・知人の家などに避難する	10.4%	27.9%	6.3%	8.9%
5 その他の安全な場所に避難する	9.4%	15.8%	7.4%	9.6%
6 自分や家族の事情で避難できない	5.3%	2.1%	6.3%	4.8%
7 避難はしない	45.5%	3.2%	58.4%	43.9%

課題

コロナ対策をした避難所は、収容人数が不足する



縁故等避難の積極的な推進

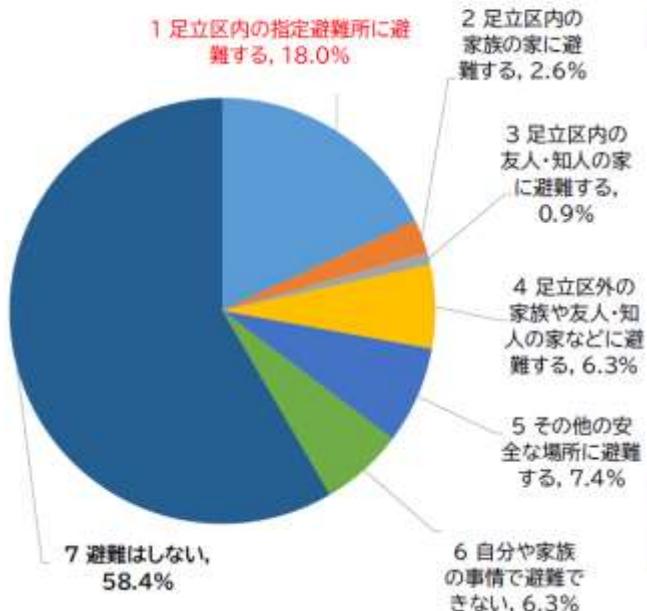
“早めに動いて、気楽な避難”

3 水害時の対応シナリオ

○台風19号時の避難行動に着目して(垂直避難者)

垂直避難者：台風第19号時に、在宅避難などを選択した人

問18 あなたは、今後、今回のような規模の台風が接近した場合、避難しますか。N=743



垂直避難(在宅避難)が出来る人が避難所に行くと

- ・感染リスクを高めかねない
- ・避難所のキャパを埋めてしまう等の課題がある。

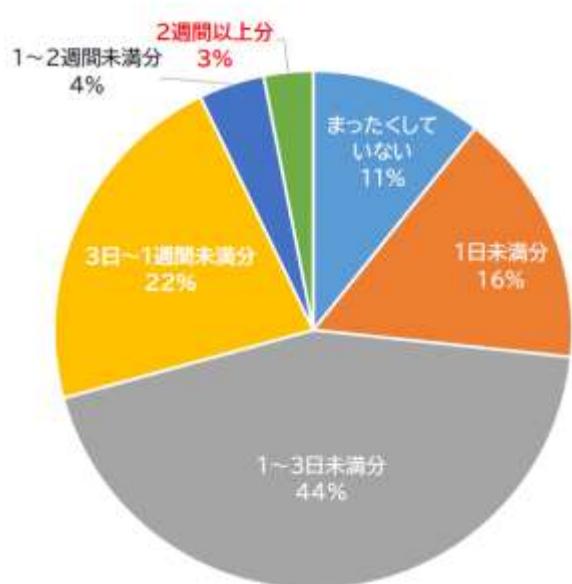
ただし、垂直避難(在宅避難)をすると

- ・浸水後に長期間孤立してしまう
- ・救助がなかなか来ない
- ・物資が底尽きる等の課題がある。

垂直避難には“強い覚悟・精神力”と“2週間以上孤立可能な準備”が必要な避難行動だと認識

垂直避難者：台風第19号時に、在宅避難などを選択した人

問21 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料など、どの程度の備蓄を用意していますか。N=743



小台・宮城地区では荒川氾濫時に、最大2週間以上の浸水継続が予想されているが2週間分以上備蓄している人はわずか3%

いざというときに買いに行っても、品薄や欠品が発生することに注意が必要



台風第19号時のホームセンター

○台風 19 号時の避難行動に着目して(避難しなかった人)

避難なし:避難しないことを選択

		Q9(台風19号で避難したか?)		
	全体	水平避難	垂直避難	避難なし
問5 あなたは、10月12日(土)から13日(日)にかけて、雨の様子や河川の氾濫する可能性を示す情報を入手しましたか。	N 1,370	190 92.6%	773 92.9%	317 88.0%
1 台風の進路等の情報	90.9%	92.6%	92.9%	88.0%
2 早期注意情報(警報級の可能性)	36.4%	39.5%	38.0%	32.8%
3 大雨警報	80.4%	80.0%	82.3%	76.3%
4 洪水警報	60.5%	63.2%	64.4%	51.4%
5 大雨警報(浸水害)の危険度分布	40.1%	49.5%	40.8%	33.8%
6 洪水警報の危険度分布	27.9%	38.4%	28.1%	19.9%
7 府県気象情報など降雨予想量・風の予想	36.7%	39.5%	37.5%	30.9%
8 河川の水位	56.9%	60.5%	58.1%	51.4%
9 その他	7.7%	11.6%	7.2%	7.3%
10上記のうち、入手していた情報はない	0.8%	0.0%	0.6%	1.6%



水平避難者や垂直避難者と比べて、情報への感度が低い

問22 あなたは、水害に直面した(あるいはしそうになった)場合、どのようなことが心配ですか。

		Q9(台風19号で避難したか?)		
	全体	水平避難	垂直避難	避難なし
※あてはまる+ややあてはまるの比率 ※NIは小項目ごとに異なるため省略				
1 自分のいる地域や場所の危険性がわからない	51.2%	49.2%	46.6%	62.9%
2 避難するタイミングがわからない	71.7%	70.9%	69.7%	78.0%
3 避難する場所がわからない	45.3%	46.8%	44.8%	46.5%
4 水害に関する情報の入手方法がわからない	40.3%	42.9%	37.2%	45.7%
5 水害に関するどの情報を見ればよいのかわからない	43.6%	47.6%	41.0%	47.0%
6 具体的にどう行動すればよいのか分からず	56.0%	58.8%	55.2%	57.0%
7 寝たきりの人や一人で避難出来ない人の避難支援をどうするか知	66.4%	78.4%	64.5%	65.3%
8 区の水害に対する備えや対策が十分かどうか	71.5%	79.3%	70.0%	72.2%

地域の危険性や避難するタイミング
への認識が弱い



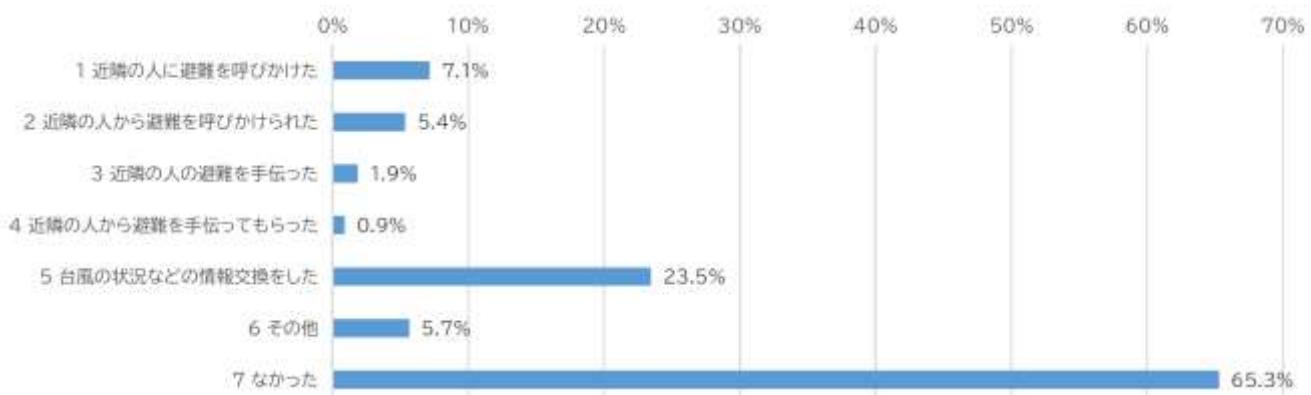
「情報共有」「声かけ」などの行動
で改善できる可能性がある

3 水害時の対応シナリオ

○台風 19 号時のその他の行動

・近隣の人との助け合いは、主に情報交換

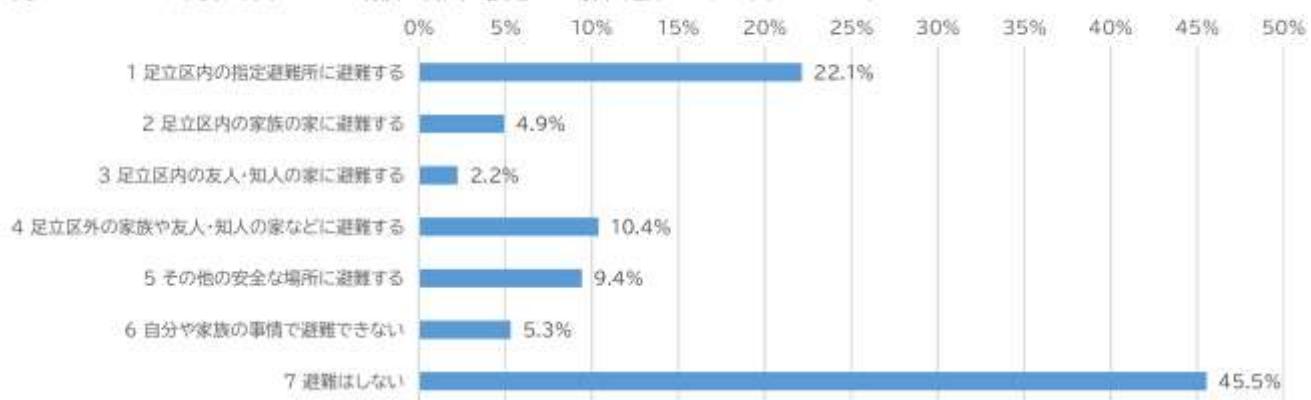
問17 今回の台風の間、あなたは近隣の人と助け合うようなことはありましたか。あなたの行動に近いものをすべてお選びください(○はいくつでも可)。(n=1,343)



○今後の避難行動

・今後、避難しないという人が半数近くいる。

問18 あなたは、今後、今回のような規模の台風が接近した場合、避難しますか。(n=1337)



(6) コミュニティタイムラインの作成

小台町会では、令和 2 年度の「小台・宮城地区コミュニティタイムライン検討部会」において、台風の発生から災害の発生までを、ステージ 1 から 5 までの 5 段階に分け「いつ」「誰が」「何を」行うのか、時系列に沿って決めた「荒川の氾濫に備えた小台町会コミュニティタイムライン」を作成しました（次頁）。

原則の見直し点

早めに次の行動をとりましょう！

小台町会コミュニティタイムライン

■町会の方針

基本的な考え方

- 人命を守る。
- 隣どうしで声かけあう。
- 高齢者、近所、知人等に声をかける。
- 各ブロック長にハンドマイクを常時置く。

普段からやっておくこと

- 町会組織の中に防災部を作ろう。
- 浸水しない避難場所に何人入れるか事前調査を行い広報をする。
- 個人で安全な場所を確保しておく。
- コロナ後に要支援者を訪問し、支援の程度を聞く。
- 危険時には町会役員が手持ちのサイレンを鳴らす。
- 町会の班毎に協力する。

■洪水時の行動

きっかけ情報

ステージ1
3日前
行動の準備

- ・台風の首都圏への接近が予想される場合(テレビなどの台風情報)

町会がすること

縁故等避難の準備

- 要支援者名簿の準備(区民事務所)区→町会
- 町会の役員が分担して電話・訪問(班長)を行う。

個人ですること

- できることを申し出る。
- 非浸水地区へ避難の受入れ要請
- 身近な人と連絡を取り合う。
- 避難情報を聞く。

ステージ2
2日前
行動の開始

- ・台風による首都圏への影響が予想される場合(テレビなどの台風情報)
- ・気象庁の緊急会見

縁故等避難の開始・要支援者へ避難の呼びかけ

- 避難準備を呼びかける回覧をまわす。
- 要支援者名簿の準備(役所の方?町会の有志)
- 要支援者へ訪問
- 担当係を決めて担当
- 町会役員がハンドマイクで声をかける。

ステージ3
1日前
早期避難
(高齢者等避難開始)

- ・避難所の開設予告
- ・計画運休の予告
- ・避難準備・高齢者等避難開始の発令

高齢者等の要支援者は避難開始

- 会長が呼びかける。
- 人命第一で各ブロックに連絡する。
- 理事で助け合いを行い、民生委員、町会、消防団で協力して避難支援する。
- 単身高齢世帯の向こう3軒両隣で町会役員に声掛け

ステージ4
12時間前
避難実施

- ・大雨・洪水警報の発表
- ・氾濫注意情報の発表
- ・避難勧告の発令

風雨が強くなる前に避難開始

- 町会の会報で水害電話連絡載せる。

ステージ5
6時間前
避難の徹底
0時間
避難の継続

- ・氾濫警戒情報の発表
- ・足立区へ台風の最接近(台風通過後の水位上昇)
- ・氾濫危険情報の発表
- ・氾濫発生情報の発表
- ・避難指示(緊急)の発令

避難場所から離れない、戻らないを徹底

- 避難済か最終確認する。

4 小台町会における平時の備え

(1) 事前対策リスト

災害時の備えを事前にチェックできるよう、自助と共助に分けて事前対策をチェックリストにしました。

■事前対策リスト(自助)

家の 中の 安全	<input type="checkbox"/> 足立区の洪水ハザードマップを目の届くところに置く。
	<input type="checkbox"/> 自分の地域の水害リスク(浸水深、継続時間等)及び自分や家族の避難行動(先)を確認する。
	<input type="checkbox"/> 台風発生時以降の情報収集の方法を確認する。
	<input type="checkbox"/> 排水溝や雨どいの点検・清掃を行う。
	<input type="checkbox"/> 浸水防止策として、土のうを用意する。
避 難 ・ 救 護	<input type="checkbox"/> 安否確認用ステッカー
	<input type="checkbox"/> ホイッスル(閉じ込め時に音を発するため)
	<input type="checkbox"/> 災害伝言用ダイヤルなど家族の連絡方法の確認
	<input type="checkbox"/> 応急医薬品(絆創膏、消毒薬、傷薬、包帯、胃腸薬、鎮痛剤、解熱剤、目薬、持病のある人は常備薬など)
水 や 食 料	<input type="checkbox"/> 飲料水は1人1日3リットルを最低3日分、7日分を推奨
	<input type="checkbox"/> 水用携行タンク(飲料水の配給時に必要)
	<input type="checkbox"/> 食糧(レトルト、缶詰、インスタント食品、栄養補助食品、チョコレート等の菓子、最低3日分、7日分を推奨)
	<input type="checkbox"/> 生活用水(飲料しない水)は、フロの汲み置き、やかんやポットに水を入れておく。
	<input type="checkbox"/> 粉ミルク、離乳食(乳幼児がいる場合)、アレルギー対応食品
	<input type="checkbox"/> ガスカセットコンロ、予備のガスボンベ
	<input type="checkbox"/> ラップ(食器にかぶせて使えば洗わなくてよい)
非 常 用	<input type="checkbox"/> 紙皿、紙コップ、割り箸
	<input type="checkbox"/> 現金、クレジットカード
	<input type="checkbox"/> マイナンバーカード、年金手帳
	<input type="checkbox"/> 軍手、歩きやすい靴
避 難 生 活 用 品	<input type="checkbox"/> 生理用品
	<input type="checkbox"/> 簡易トイレ(便袋)
	<input type="checkbox"/> トイレットペーパー(余分に備蓄)
	<input type="checkbox"/> ティッシュ(余分に備蓄)
	<input type="checkbox"/> 懐中電灯、ランタン、マッチ、ライター
	<input type="checkbox"/> ラジオ
	<input type="checkbox"/> 電池(余分に備蓄)
	<input type="checkbox"/> 毛布
	<input type="checkbox"/> 虫よけ用品
	<input type="checkbox"/> ビニールシート(敷物、雨よけ)
	<input type="checkbox"/> 貴重品リスト
	<input type="checkbox"/> 情報収集先リスト(自治体ホームページ等)
便 利 な も の	<input type="checkbox"/> ソーラーまたは手動充電器(携帯、電池用)
	<input type="checkbox"/> 家庭用発電機
	<input type="checkbox"/> 留電池
用 品 ペ ット	<input type="checkbox"/> ペットフード、水、食器
	<input type="checkbox"/> リード
<input type="checkbox"/> 防災カード(住所、氏名、連絡先、既往症、通院先、薬アレルギー等)	
<input type="checkbox"/> 工具類	
<input type="checkbox"/> 公衆電話用10円硬貨	
<input type="checkbox"/> 排便処理用品	
<input type="checkbox"/> ペット名札、手帳	

避難所では、支給できる物資には限りがあります。特に、乳幼児や障がい者、持病やアレルギーをお持ちの方、ペットを飼われている方など、それぞれの家庭に合った備蓄・準備が必要です。

■事前対策リスト(共助)

地域の共通課題である「避難対策」に絞って、基本的な事項をチェックリストにしました。

避難対策に必要な項目	チェックリスト	備考
避難場所と避難所	<input type="checkbox"/> 避難所を確認しておく。 <input type="checkbox"/> 緊急避難建物を確認しておく。 <input type="checkbox"/> 広域避難の方向（高台など）を確認しておく。	避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告等の情報に基づき避難。水害が小規模と想定される場合は、在宅避難。
避難経路	<input type="checkbox"/> 避難場所と避難所に行く経路を決めておく。	経路は通れなくなった場合を考慮して複数設定
避難に向けた情報収集	<input type="checkbox"/> 避難経路や避難先を決めるために必要な情報の収集方法を決めておく。	一目で町内の被害状況を把握できるマンションに登る、など
	<input type="checkbox"/> テレビ（ワンセグ）や携帯ラジオなどで災害情報が得られますか。	
避難先と避難経路を選択して避難開始	<input type="checkbox"/> 避難先までの経路を歩いて危険箇所をチェックしておく。	班長など、先導者が誘導
声をかけながら避難	<input type="checkbox"/> 声掛けに便利なものを用意しておく。 <input type="checkbox"/> 担当者を決めて持ち出せるようにしておく。	拡声器、メガホン、要配慮者の名簿やマップなど
要配慮者への手助け・支援の要請	<input type="checkbox"/> 要配慮者の手助け方法や支援要請先を調べておく。	警察、消防団などへ連絡 民生・児童委員との連携
避難先で町会単位で安否の確認	<input type="checkbox"/> 避難先では、町会単位で集合し、安否確認することを決めておく。	避難先で班長が集まって町会全体の安否を確認 避難していない在宅避難者もできるだけ把握
行方不明者の救助・救援の要請	<input type="checkbox"/> 救助・救援の要請先を調べておく。	区、消防団、警察などへ連絡
応急対応一段落後※、町会の災害対策本部を設置	<input type="checkbox"/> 災害対策本部の組織と役割分担を決めておく。	救命救助、緊急避難等の応急対応が優先
避難所の運営	<input type="checkbox"/> 避難所運営体制を決めておく。	町会を超える場合もあり
帰宅困難者への対応	<input type="checkbox"/> 帰宅困難者の一時滞在施設を把握しておく。	帰宅困難者には一時滞在施設の開設場所を伝える

※町会の災害対策本部の設置は応急対応一段落後を想定しましたが、災害の状況に応じて臨機応変に対応してください。

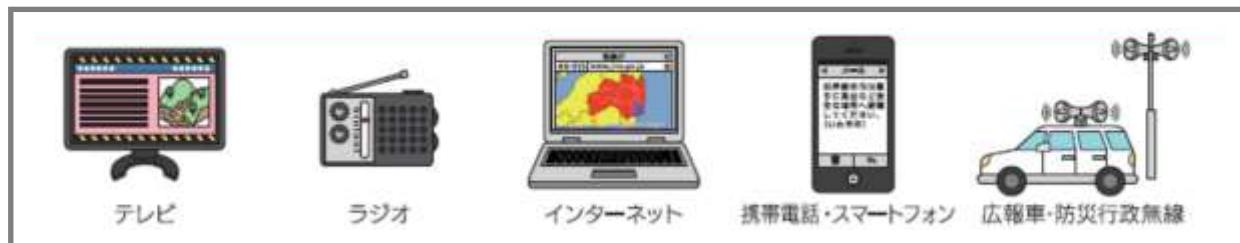
(2) 日頃の取り組み

①情報収集方法の確認

テレビ、ラジオ、インターネット(区のホームページ等)、区の防災メール※、消防団による車両広報などの災害情報の入手手段を、日常から確認します。

※災害情報をはじめ、足立区の様々な情報を携帯電話やパソコンのメールアドレス宛に送付するA-メール(足立区メール配信サービス)や、緊急かつ重要な情報を指定エリア内(足立区内)の携帯電話に一斉に配信する緊急速報メール(エリアメールサービス)、足立区LINE公式アカウントなどがあります。

気象情報や区から発信される情報の入手手段



②非常持出品や備蓄の準備

災害に備えて、各世帯での非常持出品や備蓄の準備を進めます(P28「事前対策リスト」)。

③防災訓練

小台町会による防災訓練を実施し、自助としての初動行動・避難行動の確認、共助としての避難生活支援等の取り組みを、消防署等の関係機関と協力しながら実践します。

訓練では、水害の状況に応じた避難(避難先、避難路、要配慮者への支援、本部の設置など)について取り組みます。

④活動体制の整備

日ごろから進めている小台・宮城地区の防災の取り組みと歩調を合わせながら、小台町会における防災組織として、「庶務係」「初動対応係」「救出・救護係」「物資配分係」等の係編成を設定し、具体的な役割や活動を構築して災害時の活動の実効性を高めていきます。

⑤要支援者の連絡・支援体制の準備

要支援者の連絡・支援体制の準備を進めます。災害時に一人では避難が困難な要支援者については、区から提供される避難行動要支援者名簿を効果的に活用できるように、あらかじめ取り扱い方法などを決めておくようにします。

平時からの声かけや災害時の避難誘導訓練について、周知や参加を呼びかけます。また、要支援者避難支援のための資機材の準備に取り組みます。

⑥コミュニティタイムラインの検討

水害は、台風などが発生してから被害が生じるまで時間があり、「先を見えた対応」により減災が可能です。タイムラインの考え方の基本はここにあります。

今後は、地区住民等の視点からみた「コミュニティタイムライン」について検討を進めることとし、現時点での検討結果をP27に示しました。

引き続き、地区タイムラインについての検討を行います。

※ 樣式・資料編

資料 1 様式集

参考様式 1 緊急時連絡先一覧表

区分	連絡先	連絡先担当部署	TEL
緊急連絡先	区役所		
	消防署		
	警察署		
	電気		
	ガス		
	上水道		
	下水道		
	電話局		
避難関係	避難所 ()		
	避難所 ()		
	避難所 ()		
	病院		

参考様式2 備蓄品リスト

区分	品名	規格	数量	保管場所	点検日	点検者
食糧						
水						
日用品						
消火用具						
救出救助用資機材						
その他						

参考様式 3 町会年間スケジュール

- ・年間スケジュールは任意様式とする。
- ・従来、町会で運用してきた年間スケジュールに、防災関係の予定（防災訓練等）を盛り込むものとする。

年間スケジュール（ 年度）（例）

年	月	町会スケジュール	防災関係スケジュール
年	4月		
	5月		
	6月		
	7月		
	8月		
	9月		
	10月		
	11月		
	12月		
年	1月		
	2月		
	3月		

参考様式 4 防災区民組織名簿

防災区民組織役員名簿

役 職	氏 名	住 所	電 話
本部長（会長）			
副本部長 (副会長)			
総務部	部長		
	副部長		
情報部	部長		
	副部長		
防火部	部長		
	副部長		
救護部	部長		
	副部長		
避 難 誘導部	部長		
	副部長		
給食部	部長		
	副部長		

資料2 スマートフォン用防災アプリ「足立区防災ナビ」

「あだち防災マップ」や「ハザードマップ」の表示、避難所等へのナビ、足立区公式ホームページの新着情報（RSS）や足立区公式Twitterの表示、懐中電灯や笛等、通常は個別に起動する必要のある機能を「足立区防災ナビ」一つで実現。また、施設一覧からも地図の表示やナビ、電話が可能です。足立区内の救急指定病院やコンビニエンスストア、ガソリンスタンド等の検索もでき、災害時だけでなく普段からご使用いただけます。



【メニュー画面】

1. 足立区防災マップ
2. 足立区防災ガイド
3. 足立区ハザードマップ
4. 防災・防犯懐中電灯
5. ライブカメラ・河川水位
6. 足立区施設リスト（区の施設、救急病院、コンビニ、ガソリンスタンド、飲食チェーンなど）
7. 足立区公式Twitter
8. A-メール紹介・登録
9. 足立区RSS
10. 防災・防犯ふえ
11. 防災関連リンク集（気象・電気・ガス・水道・電話・鉄道等）



資料3 A-メール（足立区メール配信サービス）

区政情報や子どもの安心情報など、足立区についての様々な情報を、あらかじめ登録された携帯電話やパソコンのメールアドレス宛にお送りします。

足立区ホームページや下記のメールアドレスに空メール（本文に何も書かずに送るメール）を送信し、送られてきたメールに表示されたURLにアクセスし、登録することができます。

adachi@sg-m.jp

- 「災害情報・気象警報」「大雨・洪水注意報」「雷注意報」で配信される警報・注意報は、気象庁の発表と連動させ、自動的に配信しています。

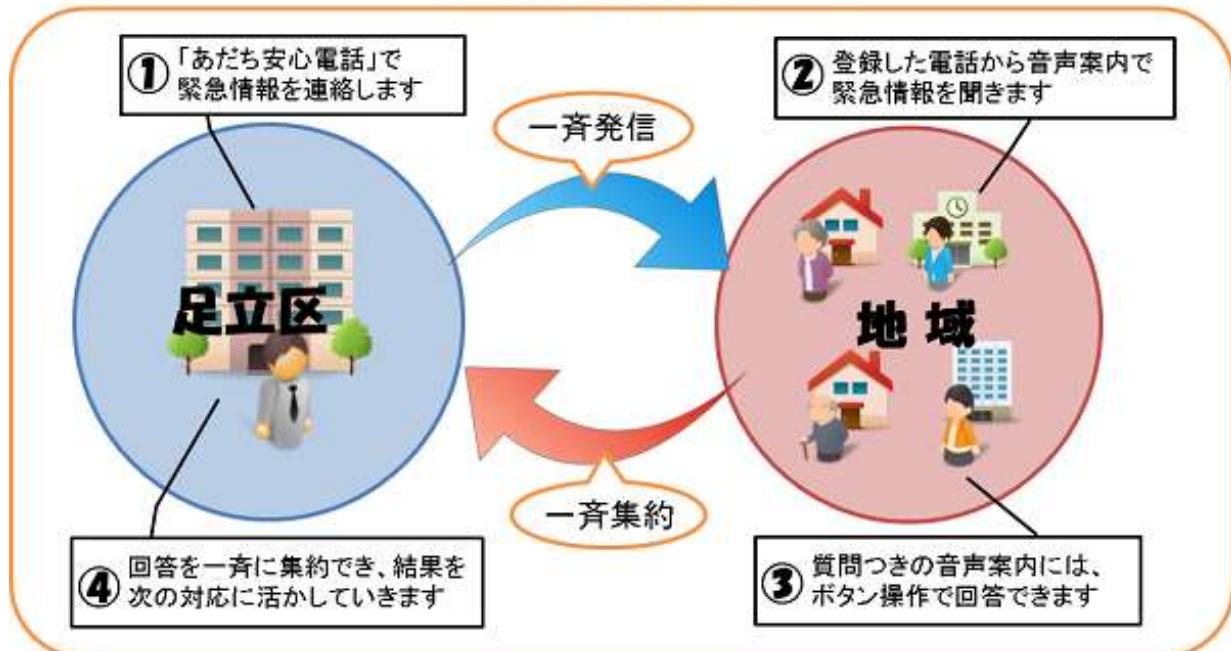


資料4 あだち安心電話

河川の水位状況や避難所開設情報等を確実にお届けするため、電話を活用した情報伝達システム「あだち安心電話」を導入し、希望するすべての区民の方（事業者を含む）の登録を隨時受け付けています。

いざという時の準備として、ぜひご登録ください。

あだち安心電話イメージ



下記の方法で申込むことができます。

①ホームページ「登録申込みフォーム」でご登録



②報道広報課（足立区役所本庁舎南館9階）または、各区民事務所（中央本町区民事務所を除く）に直接「登録申込書」をご提出ください。

③「登録申込書」を報道広報課にご郵送ください。

【申込書郵送先】

足立区報道広報課デジタル情報・広告係

〒120-8510 足立区中央本町 1-17-1

TEL : 03-3880-5514

資料 5 防災無線のテレホン案内

足立区では、災害時等に速やかに情報を伝達する手段として、防災行政無線屋外拡声装置（スピーカー）を設置しています。「放送が聞き取れなかった」「もう一度聞きたい」とときに、放送内容を電話で確認することができるサービスが、「防災無線テレホン案内」です。

ご利用方法

(1)下記の電話番号にお電話ください。

足立区防災無線テレホン案内：0180-993-366

(2)24 時間以内に放送された最新の放送が繰り返し流れます。

(3)通話料は有料となります。

※ 防災無線の放送内容は、下記ホームページからも確認できます。

<https://www.city.adachi.tokyo.jp/cgi-bin/bousai/list.cgi>



資料 6 足立区 LINE 公式アカウント

足立区では、令和 2 年 9 月 14 日に「足立区 LINE 公式アカウント」を開設しました。

「足立区 LINE 公式アカウント」では、災害に関する情報（避難勧告や避難所開設情報等）や緊急情報などのお知らせをリアルタイムに発信します。情報を受け取るには、SNS アプリ「LINE（ライン）」での友だち登録（利用者登録）が必要です。いざという時に備えて、ぜひご登録ください。

ご利用方法

(1)ご利用には「LINE（ライン）」での「友だち登録」が必要です。詳しくは下記ホームページをご覧ください。

<https://www.city.adachi.tokyo.jp/hodo/line/index.html>



(2)主な配信情報

- 台風や地震などの災害に関する情報（避難勧告や避難所開設情報等）

- 緊急でお知らせしたい重要な情報

- 「あだち広報」発行情報（月 2 回）

等々

順次、便利にお使いいただける新たなサービスを検討していきます。

(3)災害情報など緊急でお知らせしたい重要な情報は、LINE、A-メールどちらにも配信します。



資料7 地点別浸水シミュレーション検索システム（浸水ナビ）

国土交通省では、浸水想定区域図を電子地図時用に表示するシステムとして、「地点別浸水シミュレーションシステム」（浸水ナビ）を公表しています。（<https://suiboumap.gsi.go.jp/>）

浸水ナビを用いることで、河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域及びその区域が浸水した場合に想定される水深を把握することができます。

以下の手順で検索ができます。

1.Web ブラウザの検索ツール(google や yahoo 等)で「浸水ナビ」と検索します。

（URL を <https://suiboumap.gsi.go.jp/> と入力すると、該当ページに直接アクセスできます。）

2.国土交通省の「地点別浸水シミュレーションシステム」（浸水ナビ）のページを選択し

地点別浸水シミュレーション検索システムを見る ➔

をクリックします。

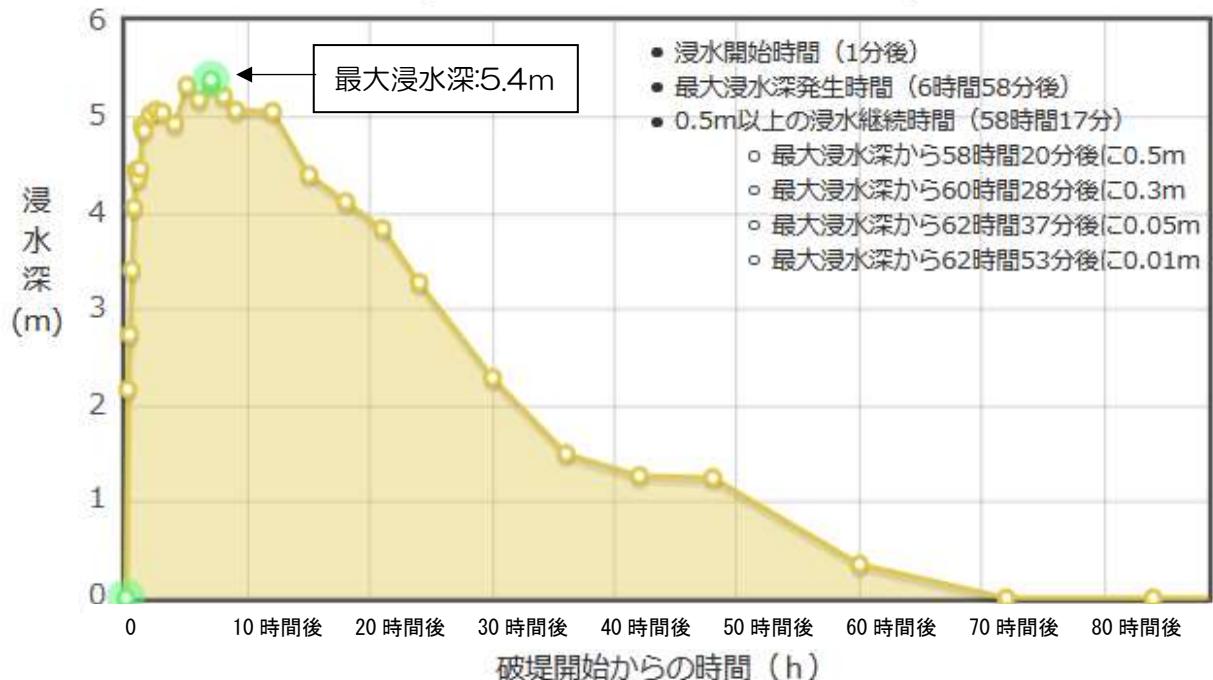
小台二丁目の珠明院付近を検索地点（下図の黒い×印）として設定し、最大の浸水深さが想定される、下図の赤い×印（荒川右岸 16.5km）で破堤した場合の浸水域シミュレーショングラフを次に示しました。（浸水ナビの場合は破堤は1地点ですが、ハザードマップは複数の想定です。）



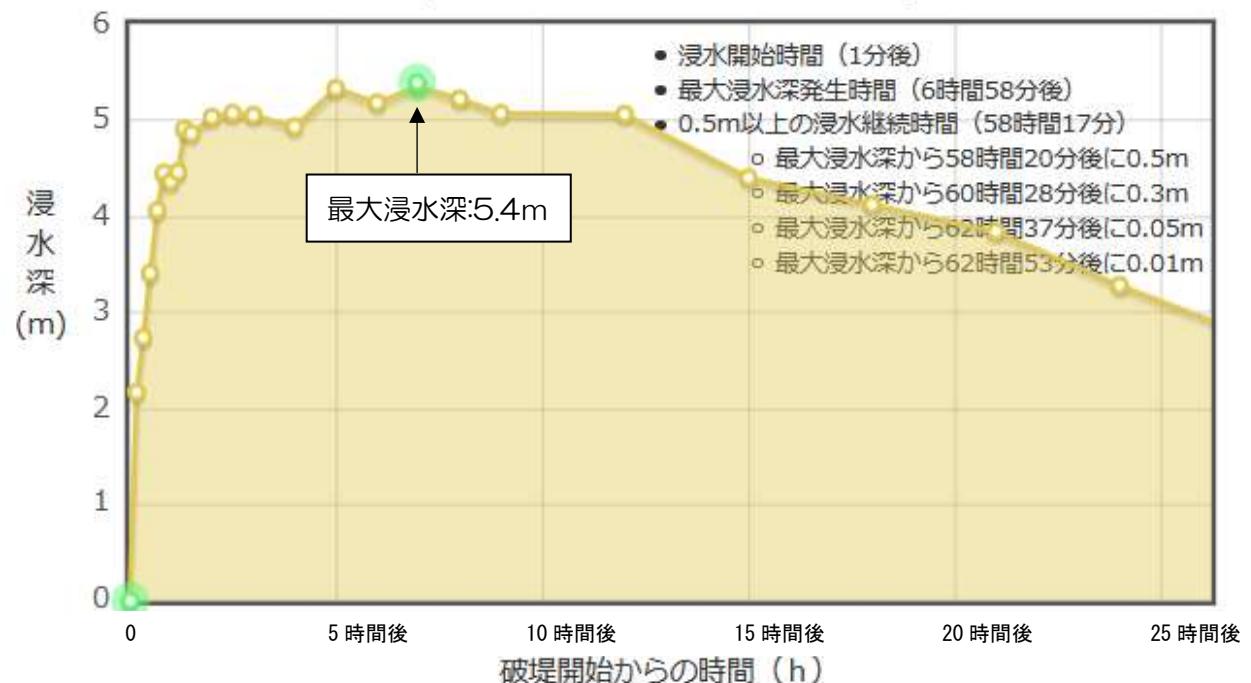
小台二丁目の珠明院付近における最大の浸水深さが想定される場合の浸水域シミュレーショングラフは、以下のとおりです。同じ内容ですが、時間幅を変えた2種類の図を示しました。

最大浸水深さは、破堤からおよそ7時間後に5.4mとなっています。ただし、破堤から10分後には浸水深は2mを超え、30分で3.4m、40分で4.1m、2時間で5.0mに達します。

浸水シミュレーショングラフ（約90時間後まで）
(BP284：荒川荒川右岸 16.50k)



浸水シミュレーショングラフ（約25時間後まで）
(BP284：荒川荒川右岸 16.50k)



Memo